

Title	西暦9・10世紀のアラビア語地理文献について：人文地理を中心に（2-2）
Author(s)	竹田，新
Citation	大阪外国語大学論集. 30 p.149-p.168
Issue Date	2004-02-27
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/79937">https://hdl.handle.net/11094/79937</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 西暦9・10世紀のアラビア語地理文献について —人文地理を中心に— (2 - 2)

竹 田 新

### On Arabic Geographical Works in the 9th and 10th Centuries (2 - 2)

TAKEDA Shin

#### (4)

Ibn Rustih (或いは Rusta) の名で知られる Abū 'Alī Aḥmad b. 'Umar は al-Jibāl の Iṣfahān の人で、290/903 年に Makka・al-Madīna を訪れた後、『貴重品』という大部の百科全書を著した<sup>64)</sup>。しかし、現在に伝わるのは、主に地理を扱った第7巻のみである。

地理の本論は、Makka と al-Ka'ba 〈・聖モスクなど〉、al-Madīna 〈と預言者モスク〉、大地の奇事、国々の奇質、海洋、河川、7iqīm (“気候帯”) とその有名な都市の名、Īrānshahr (イラン) と as-Sawād, Baghdād, Ṣan'ā' (サナア), Saba', Miṣr, Qusṭanṭīniya とその王, ar-Rūmīya (ローマ), al-Hind, al-Khazar, Burdās, Bulkār (ブルガール), al-Majghariya (マジャール), aṣ-Ṣaqlabiya (スラヴ), ar-Rūsiya, as-Sarīr (アヴァール), al-Lān (アラーン), Yājūj と Mājūj, Ṭabaristān, Iṣfahān, 平安の都 - ar-Rayy - Naysābūr - Hirāt 〈など〉 - Sijistān 〈など〉の道, Baghdād - 〈al-Madīna -〉 Makka の道と al-Baṣra ほか各地からの Makka・al-Madīna への道など, Baghdād - Wāsiṭ - Sūq al-Ahwāz - Arrajān - Shīrāz の道など、の記述であるが、地理の本論より先に記されるコスモグラフィーにも、大地は球形、地球は天球の中心、大地とその形状・大きさ・組成など、大地の形状に関する諸人の意見の相違、の記述が見られる<sup>65)</sup>。

この書のコスモグラフィーを地理書の序論とみるならば、従来の地理書のそれよりはかなり詳しい。クルアーンの聖句を拠り所として多用しながら、al-Farghānī (247/861 年以後没) の『星と天体運動との学の集成』なども利用して、いわゆる科学的な記述を行っており、大地の自転説さえ挙げている<sup>66)</sup>。本論に入ると、al-Azraqī (244/858 年頃没) の『メッカ史』及び Ibn Zabbāla (198/814 年以後没) の『メディナ史』を利用した Makka・al-Madīna 両聖都の記述が詳細である一方、Baghdād の記述が簡単なこと、更には、当然とも言えようが、著者の故郷 (Iṣfahān) の記述も詳しいことが、まず目に付く。そして、イスラーム圏外の記述は、Ibn Khurdādhbih (或いは Khurradādhbih, 272/885 年以後没) の『諸道と諸国』や下記の al-Jayhānī の地理書の草稿を利用したものも多いと言われる<sup>67)</sup>が、Qusṭanṭīniya の記事 (当地で捕囚された Hārūn b. Yahyā 談)、Khumār (クメール) の記事 (当地に2年

滞在した Abû 'Abd Allâh Muḥammad b. Ishâq 談), al-Khazar 以下の北方の記事など, 資料的価値の高いものが目立つ。また, 最後に置かれた道程の記述は Baghdād 及び Makka を基点とするもので, Ibn Khurdādhbih の前掲地理書以来のものと大差ないが, 北方及び西方への道程の記述が省略されている。Ibn Rustih の書は, イスラーム圏内が中心の「諸道と諸国の学」と, イスラーム圏外が中心の「国々の奇事の学」というイスラーム記述(地誌的)地理学の両分野に跨がり, かつ後述する数理・天文地理学の分野をも一部カバーしており, イスラーム地理百科と言ってもおかしくない内容である。以後, Ishâq b. al-Ḥusayn の前掲書, ath-Tha'libî (429/1038 年没) の *K. Laṭā'if al-ma'ārif*『洒落た逸話』, al-Bakrî・al-Idrīsī の各前掲書, al-Qazwīnī の『諸国の古跡』, an-Nuwayrī の前掲書, as-Samhūdī (911/1506 年没) の *K. Khulāṣat al-wafā bi-akhbār dār al-Muṣṭafā*『アル・ムスタファー邸に関する情報の充足からの要約』などに利用・引用される<sup>68)</sup>。

al-Jayhānī の名で知られる Abû 'Abd Allâh Muḥammad b. Aḥmad b. Naṣr は, 302/914 年にサーマーン朝第 4 代君主 Naṣr b. Aḥmad (在位 301-31/913-43 年) の宰相となり, 309/921 年には Bukhārā に立ち寄った前述の Ibn Fadlān と会見している人物である<sup>69)</sup> が, 各地からの使節などに情報を求め, 310/922 年頃に『諸道と諸国』(別名, *K. al-Masālik fī ma'rifat al-mamālik*『諸国の知識に関する諸道』)という地理書を編んだのではないかと考えられる<sup>70)</sup>。

この書は現存しないのだが, al-Mas'ūdī の『提言と再考』によれば, 世界の奇事, 町, 都, 海, 川, 民, 住地などを記述したものらしい<sup>71)</sup>。また, al-Muqaddasī の前掲書によれば, 7 巻から成り, 世界を 7 つの iqlīm (“気候帯”か keshvar) に分けて, 各 iqlīm に支配星(太陽, 月, 5 大遊星)を配し, 東西南北への街道を述べ, その道筋に広がる平地, 山地, 溪谷, 丘陵, 森林, 河川を説明するほか, 各地の租税額を詳記したり, al-Hind や as-Sind の奇事を描いたりし, 天体にも言及するものらしい<sup>72)</sup>。

al-Jayhānī の『諸道と諸国』は, Ibn Khurdādhbih の同名の行政地理書を模したものではなかったかと考えられる<sup>73)</sup> が, “珍しい情報や素敵な話”によって Ibn Khurdādhbih の書の無味乾燥な記述を中和した作品, 「国々の奇事の学」的要素の混入した「諸道と諸国の学」の書と言えるのではなかろうか。そして, al-Mas'ūdī の『提言と再考』をはじめ, Muṭahhar al-Maqdisī・Ibn Ḥawqal・al-Muqaddasī・ath-Tha'libī の各前掲書, al-Bīrūnī (442/1050 年以後没) の *K. al-Āthār al-bāqiya 'an al-qurūn al-khālīya*『過ぎし世紀からの残跡』と *K. fī Taḥqīq mā li-'l-Hind*『インドの事物の究明』と *K. Taḥdīd nihāyāt al-amākin li-taṣṭih masāfāt al-masākin*『住地間の距離を正すための諸所の位置決定』, al-'Udhri・al-Bakrî・al-Idrīsī の各前掲書, al-Marwazī (514/1120 年以後没) の *K. Ṭabā'i al-ḥayawān*『動物の本性』, al-Kharāqī (533/1138 年没) の *K. Muntahā al-idrāk fī taqṣīm al-aflāk*『天体の分類理解の極み』, Yāqūt の前掲書, al-Qazwīnī の『諸国の古跡』, Abū 'l-Fidā'・al-Maqrīzī の各前掲書などに利用・引用される<sup>74)</sup>。また, Ibn Rustih が al-Jayhānī の初期の草稿を利用したというのがこれまでの通説である<sup>75)</sup>。

Muṭahhar b. Ṭāhir はその出自名 al-Maqdisī から Bayt al-Maqdis (エルサレム) の人らしいが, Sijistān の Bust に暮らし, 355/966 年頃にサーマーン朝の或る宰相のために歴史が中心の百科全書『創始と歴史』(或いは *K. Bad' al-khalq wa-'l-ta'rīkh*『創始と歴史』)を著した<sup>76)</sup>。

この書は22章から成るが、地理に関しては第13章が7 “気候帯”, 海洋, 河川, 諸国【aṣ-Ṣīn, al-Hind, Tubbat, Yâjûj & Mâjûj, at-Turk, al-Khazar と ar-Rûs, ar-Rûm, al-Barbar, al-Ḥabasha (アビシニア), al-Bisharîya (al-Bishârîn), az-Zanj, イスラームの地: al-Hijâz al-Yaman ash-Shâm Miṣr al-Maghrib al-'Irâq al-Jazîra as-Sawâd Âdharbayjân と Armîniya al-Ahwâz Fâris Kirmân と Sijistân と Makrân al-Jibâl 〈と ad-Daylam〉 Khurâsân 〈と Mâ warâ' an-Nahr〉】、聖地・モスク、辺境、大地の奇事、種族の奇事、町村の建設者、国々の荒廃〈の原因〉を扱うほか、第7章に天地の創造、第12章に人々の宗教・信条の記述が見られる<sup>77)</sup>。

諸国の描写において内容的には目新しいものはないが、居住世界を満遍なく取り扱い、イスラーム圏外の地は各々に範囲・住民・風土・習俗などを、イスラームの地に関しては範囲・都市・租税などを叙述している。但し、イスラーム圏内の描写では慣例たる街道の記述が、al-'Irâq から Makka への道（聖地・モスクの項中）以外に見られない。ともあれ、第7章のコスモグラフィも包括的であり、この書は簡潔でバランスのとれた地理百科を提供してくれる。以後、Yâqût と Ibn al-Wardî の各前掲書などに利用・引用される。

al-Hamdânî すなわち al-Yaman の Hamdân 族に属する Abû Muḥammad al-Ḥasan b. Aḥmad b. Ya'qûb b. Yûsuf b. Dâwûd は、Ibn al-Ḥâ'ik や Ibn Abî 'd-Dumayna の名でも知られる<sup>78)</sup>。Ṣan'â' に生まれ育ち、Makka で諸学を修めた後、al-Yaman に戻り、Rayda 及び Ṣa'da に暮らし、最後は政治的紛争に巻き込まれて Ṣan'â' で獄死した、民俗学の大家かつ詩人である。著書は10巻に及ぶ郷土誌 *K. al-Iklîl*『王冠』ほか、多方面（考古学・系譜学～化学・哲学）にわたっているが、308/920 年以後に、地理書『アラビア半島の特質』（別名 *K. Jazîrat al-'Arab wa-asma' bilâd-hâ wa-awdiyat-hâ wa-man yaskunu-hâ*『アラビア半島と、その各地とワジと住民との名前』などか）を著した<sup>79)</sup>。

この地理書は、最も優れた居住地に関してほか、Baṭlîmûs (Ptolemaeus) による“気候帯”分割に関して、Baṭlîmûs に基づく北半球各地の区分、経度と緯度に関する人々の見解の相違、Baṭlîmûs に基づく居住地の住民の性質に関する総論、同じく各論、アラビアの有名な町々の経度と緯度に関して；アラビア半島の特質、al-Yaman 住民によるこの半島の区分に関して、al-Yaman al-Khaḍrâ' (沃野地域) の特質、海の島々、al-Yaman at-Tihâmîya (海岸地域) の町々、al-Yaman an-Najdiyya (高原地域) などの町々、Ṣan'â' の町、al-Yaman にある as-Sarâh の山、as-Sarâh の諸ワジ、as-Sarâh の諸遺跡、al-Jawf, al-Yaman の Ḥaḍramawt, Ḥimyar の傾斜地と諸ワジと住民、Madhḥij の傾斜地、〈al-Ma'âfir・Jayshân・Ma'rib・Dhimâr などの地区〉、Hamdân 地方、Khawlân Quḍâ'a 地方の Ṣa'da 地区、Jurash とその周囲、al-Yaman の Tihâma、〈有名な山々、危険地点、居住地、al-Yaman の植物、半島住民の言語、水場、鉱山、風〉、塩水、Najd の木、Najd の枯れ折れる草の名、Najd などの土地の特質、アラビア半島の al-'Arûḍ の特質、al-Yamâma；al-Yaman・Najd・al-'Arûḍ・al-'Irâq・ash-Sha'm 間にある有名な場所とこれらを通る al-'Irâq 街道、Juhayna の地、al-'Arûḍ と Najd との Diyâr Rabi'a、詩人たちの詩句、al-'Irâq・ash-Sha'm・al-Yaman 間にあるアラブ人居住地の集合、〈al-'Irâq・Makka 街道、Ṣan'â' 街道、'Adan 街道、Ḥaḍramawt 街道など〉；al-Yaman の諸奇事；アラブ人居住地に関する詩集；巡礼に関する rajaz 調の詩；という内容である<sup>80)</sup>。

この書も序論は数理・天文地理学に関する部分で、Ptolemaeus系統の「経度と緯度の学」の優れた紹介となっている。本論のアラビア半島(Tihâma, al-Hijâz, Najd, al-'Arûḍ, al-Yamanに分かれる)の地誌はal-Yamanの記述が中心となっている。これは半島内の他地域の記述が基本的に旅行者からの情報と地名辞典など先人の著作とによっているのに対し、al-Yamanの記事が先人の著作も利用するが、主にal-Hamdânî自身の観察によって書かれたものであるからだと言えよう。特に、植物や遺跡のきめ細かい描写は他書の追従を許さない。また、盛んに古詩から地理的信息を引き出し、現在(執筆当時)と過去とを巧みに組み合わせた地誌を作り出している。以後、[al-Bakrîの前掲書と*K. Mu'jam mā 'sta'jam*『難読地名辞典』]、Yâqûtの前掲書、al-Qazwînîの『国々の古跡』、al-Qalqashandî・al-Himyarîの各前掲書などに利用・引用される。

また、al-Hamdânîの名著『王冠』も南アラビアに関する多くの地理情報を含み、地理書共々、この地域の研究には欠かせぬ資料を提供する<sup>81)</sup>。

同じアラビア半島を扱っている書として、Lughda al-Iṣfahânîという名で知られる言辞学者Abû 'Alî al-Ḥasan b. 'Abd Allâh (310/922年頃没)が著したとされる*K. Bilâd al-'Arab*『アラブの地』もある<sup>82)</sup>。但し、この書はal-Aṣma'î (213/828年没)が著した*K. Jazīrat al-'Arab*『アラビア半島』という作品であると考えられる説も見られる<sup>83)</sup>。

この著作はal-HijâzとNajdとal-Yamâmaとal-Hijâz北部(?Tihâma)における各部族の土地・水場・山地・居住地、各地域からMakkaやal-Baṣraへの道などについて説明しており、一種の地名辞典とも言える内容である<sup>84)</sup>。以後、az-Zamakhsharî (538/1145年没)の*K. al-Amkina wa-'l-jibâl wa-'l-miyâh*『諸地と山地と水場』、Abû 'l-Faṭḥ al-Iskandarî (Naṣr b. 'Abd ar-Raḥmân, 561/1166年没)の*K. al-Amkina wa-'l-miyâh wa-'l-jibâl*『諸地と水場と山地』やYâqûtの前掲書などに利用・引用されたと考えられる<sup>85)</sup>。

その他、アラビア半島の主に地名を扱ったものには、伝聞によれば、as-Sakûnî (Abû 'Ubayd Allâh Aḥmad b. al-Ḥasan, 334/945年以後没)の*K. Asmâ' miyâh al-'Arab*「アラブの水場名」— Yâqûtの前掲書が利用か—、as-Sîrâfî (Abû Sa'îd al-Ḥasan b. 'Abd Allâh b. al-Marzubân, 368/979年頃没)の*K. Jazīrat al-'Arab*「アラビア半島」— Yâqûtの前掲書が言及—などもあったようだ<sup>86)</sup>。

更には、言辞学的書物のうち、al-Azharî (Abû Manṣûr Muḥammad b. Aḥmad b. al-Azhar, 370/980年没)の*K. Tahdhîb al-lugha*『言語の矯正』はアラビア半島(特に東部)の諸所に関する記述を含み、Yâqûtの前掲書に多数の引用が見られるほか、al-Qalqashandîの前掲書などにも利用・引用されており、また、al-Jawharî (Abû Naṣr Ismâ'îl b. Ḥammâd, 393/1002年以後没)の*K. Tâj al-lugha wa-ṣiḥâḥ al-'arabiya*『言語の王冠とアラビア語の正用法』はアラビア半島各地ほかの地名を説明しており、Sibt b. al-Jawzîの前掲歴史書の地理部分やAbû 'l-Fidâ'の前掲書などに盛んに利用・引用されている<sup>87)</sup>。

Aḥmad ar-RâzîすなわちAbû Bakr Aḥmad b. Muḥammad b. Mûsâ b. Bashîr b. Jannâd b. Laqîṭ al-Kinânî ar-Râzî (ar-Rayy 人—父の出身地に因む—)は、al-Andalusに生まれ、Qurṭuba(コルドバ)で碩学たちに教えを受け、al-Andalus史の大家となった人物で、ヨーロッパでは

Elmore Elrasis の名で知られる<sup>88)</sup>。

彼の al-Andalus 誌は歴史書 *K. Akhbâr mulûk al-Andalus* 『アンダルス諸王史』の序と考えられ<sup>89)</sup>、現在、アラビア語原本が不明であるが、ポルトガル語およびカスティリア語の翻訳本が知られており、それらに従うと、al-Andalus の概観；al-Andalus の長所；al-Andalus 各地方の描写：Qurṭuba, Qabra (カブラ), Ilbira (エルビラ), Jayyân (ハエン), Tudmîr, Balansiya (バレンシア), Ṭurtûsha (トルトーサ), Ṭarrakûna (タラゴーナ), Lârida (レリダ), Barbâtâniya (ボルターニャ), Washqa (ウエスカ), Tuṭîla (トゥデーラ), Saraqûṣṭa (サラゴーナ), Qal'a Ayyûb (カラタユード), Bârûsha, Madîna Sâlim (メディナセリ) と Shantabariya (サンタベール), Raqûbîl (レコポリス) と Suritta (ゾリタ), Wâdî al-Hijâra (ガダラハラ), Ṭulayṭula (トレド), Faḥṣ al-Ballûṭ (Llano de las bellotas), Firrîsh, Mârîda (メリダ), Baṭalyûs (バダホス), Bâja (ベージャ), Shantarîn (サンタレイン), Qulunbirya (コインブラ), Ikshîtâniya (Exitania), Ushbûna (リスボン), Ukshûnuba (オクソノバ), Nabla (ニエブラ), Ishbiliya (セビリア), Qarmûna (カルモナ), Mawrûn (モロン), Shadhûna (Sidona), al-Jazîra al-Khaḍrâ' (アルヘシラス), Rayya (レイヨ), Isja (エシハ)；al-Andalus の山岳と河川；という内容である<sup>90)</sup>。

各地方の描写は位置、自然、町や砦、道程などの記述を含み、後ウマイヤ朝の最盛期 'Abd ar-Raḥmân 3 世の治世 (300-50/912-61 年) 下の al-Andalus の地事情を知るための重要な資料を提供する。そして、歴史書と地理書との無分化は Paulos Orosius (417 年以後没) の *Historiarum adversus Paganos* 『異教徒に抗する歴史書』に倣ったものと言われ、以後の al-Andalus における多くの作品に踏襲されることになる<sup>91)</sup>。そのこともあって、この al-Andalus 誌は al-'Udhri の前掲書、Ibn Ḥayyân (469/1070 年没) の *K. al-Muqtabas fî ta'riḥ al-Andalus* 『アンダルス年代記よりの引用』、al-Bakrî の『諸道と諸国』、Yâqût の前掲書、Ibn Sa'id の *K. al-Mughrib fî ḥulâ al-Maghrib* 『マグリブの飾りを誇張するもの』、al-Qazwîni の『諸国の古跡』、al-Himyarî の前掲書、al-Maqqarî (1041/1632 年没) の *K. Naḥḥ al-aṭ-ṭib min ghuṣn al-Andalus ar-raṭîb* 『アンダルスの涼しい小枝の芳香』などに利用・引用されている。

Aḥmad ar-Râzî には、Ibn Abî Ṭâhir Ṭayfûr (280/893 年没) の *K. Ta'riḥ* (或いは *Akhbâr*) *Baghdâd* 『バグダード史』のスタイルに従い、Qurṭuba の通りや邸宅に関して詳細に記した *K. fî Ṣifât Qurṭuba* 『コルドバの特質(或いは描写)について』という作品もあると、al-Maqqarî の前掲書は伝えている<sup>92)</sup>。

また、Aḥmad ar-Râzî の al-Andalus 誌に類似し、「諸道と諸国の学」に含まれるかも知れない著作として、al-Warrâq の名で知られる、al-Andalus の人で al-Qayrawân に長期滞在した Abû 'Alî (或いは 'Abd Allâh) Muḥammad b. Yûsuf al-Qayrawânî (363/973 年没) が著した、*K. Masâlik wa-l-mamâlik* 『諸道と諸国』という Ifriqiya (ここでは北アフリカを指す) に関する大部の作品もあったらしく<sup>93)</sup>、以後、al-Bakrî の『諸道と諸国』や Ibn 'Idhârî (Abû 'l-'Abbâs Aḥmad b. Muḥammad al-Marrâkushî, 712/1312 年以後没) の *K. al-Bayân al-mughrib fî akhbâr <mulûk> al-Andalus wa-l-Maghrib* 『アンダルスとマグリブ〈諸王〉史に関する驚嘆すべき説明』、al-Maqqarî の前掲書などに利用・引用されている。

'Umar al-Kindīすなわち Abū Ḥafṣ 'Umar b. Muḥammad b. Yūsuf b. Ya'qūb al-KindīはMiṣr(エジプト)の人で、イフシード朝の当時(334-57/946-68)の実質的支配者 Abū 'l-Misk Kāfūr のために、『エジプトの長所』という地理が主体の書を著した<sup>94)</sup>。

この書は序文に続いて、他所に対するMiṣrの優位性、Miṣrの優位性について述べられた事柄を記し、Miṣrに関わる預言者や賢人や法学者やカリフなどを紹介した後、Miṣrと、他国に対する優位性、Miṣrの諸県、Miṣrの地租、Miṣrの景観と美、MiṣrのNīlについて述べられた事柄、Miṣrの墓地の優位性、Miṣrの特事と奇事を記す<sup>95)</sup>。

『エジプトの長所』は2/7世紀後半から盛んに記されるイスラーム征服地の長所の報告としてのfaḍā'ilの延長線上にあるとはいえ、Ibn Zūlāq (Abū Muḥammad al-Ḥasan b. Ibrāhīm b. al-Ḥusayn al-Laythī, 387/997年没)の*K. Ta'riḫ Miṣr wa-akhbār-hā*『エジプト史』と共に、後のkhiṭaṭ (lit. 諸地区)と呼ばれる多数のMiṣr地誌の見本となった作品である<sup>96)</sup>。以後、このIbn Zūlāqの書をはじめ、al-Bakrīの『諸道と諸国』、Abū Ja'far al-Idrīsīの前掲書、Ibn Sa'idの『マグリブの飾りを誇張するもの』、al-Qazwīnīの『諸国の古跡』、an-Nuwayrī・Ibn Duqmāq・al-Qalqashandī・al-Maqrīzīの各前掲書、Ibn Taghrī Birdī (874/1470年没)の*K. an-Nujūm az-zāhira fī mulūk Miṣr wa-'l-Qāhira*『エジプトおよびカイロの諸王の輝く星』、as-Suyūṭī (911/1505年没)の*K. Ḥusn al-muḥāḍara fī akhbār Miṣr wa-'l-Qāhira*『エジプトおよびカイロについての話題の美』、Ibn Iyāsの『時代の出来事に関する新奇な花々』などに利用・引用される。

faḍā'il書には、そのほか、al-Janadī (Abū Sa'id al-Mufaḍḍal b. Muḥammad b. Ibrāhīm ash-Sha'bī, 308/920年以後没)の*K. Faḍā'il al-Madīna*『メディナの長所』—後述するIbn al-Qāṣṣの書が利用—、al-Ḥasan b. Ishāq (Abū 'Alī al-Ḥasan b. 'Umar b. Ishāq al-Faqīh, 4/10世紀)の*K. Faḍā'il al-Iskandarīya*『アレクサンドリアの長所』や、伝聞では、同じくal-Janadīの*K. Faḍā'il Makka*『メッカの長所』—Ibn al-Qāṣṣの書やYāqūtの前掲書などが利用—といった作品もあると言われる<sup>97)</sup>。

また、こうした一地方誌や一都市誌の内容を含む歴史書としては、Ibn Zūlāqの前掲書をはじめ、Ibn aṣ-Ṣaghīr (al-Mālikī, 300/912年以後没)の*K. Akhbār al-a'imma ar-Rustamīyīn*『ルスタム朝君主史』、Abū Zakarīyā' al-Azdī (Yazīd b. Muḥammad, 334/946年没)の*K. Ta'riḫ al-Mawṣil*『モスル史』、an-Narshakhī (Abū Bakr Muḥammad b. Ja'far, 348/959年没)の*K. Ta'riḫ Bukhārā*『ボハラ史』、前述の'Umar al-Kindīの父Muḥammad al-Kindī (Abū 'Umar Muḥammad b. Yūsuf b. Ya'qūb at-Tujībī, 360/971年没)の*K. Wulāt Miṣr*『エジプト総督たち』、Ibn al-Qūṭīya (Abū Bakr b. 'Umar b. 'Abd al-'Azīz, 367/977年没)の*K. Ta'riḫ iftitāḥ (or fath) al-Andalus*『アンダルス征服史』、al-Qummi (Ḥasan b. Muḥammad b. Ḥasan, 406/1015-6年没)の*K. Ta'riḫ Qumm*『コム史』(378/989年)などに加えて、伝聞では、as-Sājī (Abū Yaḥyā Zakarīyā' b. Yaḥyā b. Abd ar-Raḥmān al-Baṣrī, 307/920年没)の*K. Ta'riḫ al-Baṣra*『バスラ史』や'Abd aṣ-Ṣamad b. Sa'id (Abū 'l-Qāsim, b. 'Abd Allāh al-Ḥimṣī, 324/936年没)の*K. Ta'riḫ Ḥimṣ*『ホモス史』、'Alī as-Salāmī (Abū 'Alī al-Ḥusayn b. Aḥmad al-Bayhaqī, 344/955年以後没)の*K. at-Ta'riḫ fī akhbār wulāt Khurāsān*『ホラーサーン総督史』なども挙げられる<sup>98)</sup>。

Ishâq b. al-Ḥusayn は munajjim (星学者) として有名な人物らしいが、おそらく al-Andalus において『各地の有名な町々の叙述に関する珊瑚の丘』という地名辞典を著したのではないと言われる<sup>99)</sup>。執筆年代は、341/952 年以降であると考えるが、5/11 世紀の可能性もある<sup>100)</sup>。後者の場合には、この作品は Ishâq b. al-Ḥasan b. Abī 'l-Ḥusayn az-Zayyât (450/1058 年没) 著の別名 *K. Dhikr al-aqālīm wa-'khtilâf-hâ*『諸気候帯とその相違の叙述』であるとする説が有力である<sup>101)</sup>。

Ishâq b. al-Ḥusayn 著『各地の有名な町々の叙述に関する珊瑚の丘』とする 1129/1717 年のイエメン写本は、Makka, 預言者の町 (al-Madīna), Bayt al-Maqdis, Baghdād, Surra Man Ra'â, [al-Kūfa], al-Baṣra, Wāsiṭ, 'Abbādān, Sirāf, Ṣan'â, 'Adan (アデン), 'Umân (オマーン), Saba' <と Ma'rib>, Ḥaḍramawt <と Usqutṛā (Suqutṛa ソコトラ)>, al-Baḥrayn <と Hajar>, aṭ-Ṭā'if と al-Yamāma, Dimashq, Ḥalab, Ṭabarīya (ティベリアス), 'Asqalān, Ṭarsūs, al-Mawṣil (モスル) <と Adharbayjān>, Hamadhān <と Nihāwand>, Iṣbahān, ar-Rayy, Ḥulwān, Ṭabaristān, Jurjān, Naysābūr, [Ṭūs], Marw, Sarakhs, Hirāt, Kirmān, Khuwārazm (ホラズム), Sijistān, Balkh, Bukhārā, Samarqand, al-Iskandariya, Dimyāt (ダミエッタ), Tinnīs, Miṣr (al-Fustāt), Madyan, 'Ayn ash-Shams, al-Qulzum (古スエズ), Ṭarābulus (トリポリ) <と Surt と Ajdābiya>, al-Qayrawān, Tāhart (ティアレット), al-Barbar の地 <と Tanas と Bijāya と Fās (フェズ) ほか>, as-Sūdān の地 <と an-Nūba の地と Jarmī と Zaghāwa など>, al-Andalus の島 <と Qurṭuba と Ishbiliya と Ṭulayṭula と Saraquṣṭa と Mārīda と Balansiya ほか>, ar-Rūm と al-Ifranj, Rūmīya, al-Qusṭantīniya, ar-Raqīm と 洞穴, al-Hind の az-Zābaj, al-Khazar と ash-Shāsh (タシュケント) との地 <と Bulkār と (Ṭurāraband)>, at-Turk の地を記載する<sup>102)</sup>。

すなわち、3 聖都、イラク、アラビア、シリア・パレスティナ、イラン・中央アジア、エジプト、北アフリカ、南ヨーロッパ、東アジアほかの順に、各都市などの“気候帯”・経緯度・景観・歴史・住民ほかを説明したものであるが、この書は相当に大きな作品の抜粋ではないかと考えられる<sup>103)</sup>。以後、Ishâq b. al-Ḥusayn 或いは Ishâq b. al-Ḥasan の作品は、少なくとも al-Bakrī の『諸道と諸国』、al-Idrīsī・Ibn al-Khaldūn の各前掲書など西方イスラーム圏の作品に利用・引用されている。

なお、伝聞によれば、アラビア半島外も扱う地名辞典としては、Ibn Mardūya (Abū Bakr Aḥmad b. Mūsā, 352/963 年没) による *K. Mu'jam al-buldān*『国々の辞典』もあったらしい<sup>104)</sup>。

また、この 4 / 10 世紀には ash-Shābushtī (388/998 年以後没) の *K.ad-Diyārāt*『修道院』ほかの、イスラーム圏各地の修道院を扱った作品が盛んに著された<sup>105)</sup>。

ash-Shābushtī の名で知られる Abū 'l-Ḥasan 'Alī b. Muḥammad は、エジプトのファーターマ朝カリフ al-'Azīz の司書を務めた文人・詩人であり、この『修道院』は、al-'Irāq の Dayr Darmālis や Dayr al-'Adhārā など 29, al-Jazīra の Dayr al-'Alā など 12, ash-Sha'm の Dayr Fiḡ など 3, Miṣr の Dayr al-Quṣayr など 9, 計 53 の修道院を取り上げ、主に各修道院にまつわる詩を集めたものだが、それぞれの場所の説明やその修道院に関係する人物の歴史的情報などを含んでいる<sup>106)</sup>。この書はその後、Yāqūt の前掲書、al-Qazwīnī の『諸国の古跡』、Ibn



Shaddād・al-'Umarî・al-Maqrîzî の各前掲書などに利用・引用される。

このほか、伝聞に従うと、al-Khâlidîyân の名で知られる兄弟, Abû 'Uthmân Sa'id b. Hâsim b. Wa'la (350/961 年没) と Abû Bakr Muḥammad b. Hâsim b. Wa'la (380/990 年没) による *K. ad-Diyârât*, Abû 'l-Faraj al-Isfahânî すなわち Abû 'l-Faraj 'Alî b. al-Ḥusayn (356/967 年没) 著による *K. ad-Diyârât* — al-Bakrî の『難読地名辞典』, Yâqût・al-'Umarî の各前掲書などが利用・引用—や, as-Sarî ar-Raffâ' al-Mawṣilî すなわち Abû 'l-Ḥasan as-Sarî b. Aḥmad b. as-Sarî al-Kindî (362/972-3 年没) 著の *K. ad-Diyara*『修道院』, ash-Shimshâtî (或いは ash-Shumayshâtî) の名で知られる Abû 'l-Ḥasan 'Alî b. Muḥammad al-'Adawî (377/987 年没) 著の *K. al-Adyira wa-l-a'mâr fi 'l-buldân wa-l-aqtâr*『諸国・地方における〈様々な〉修道院』— Yâqût の前掲書などが利用・引用—なども、同傾向の作品であったようだ<sup>107)</sup>。

更には、歴史書にも世界の地理情報が含まれており、Agapius すなわち Maḥbûb b. Qusṭantîn al-Manbijî (330/942 年以後没) の世界史 *K. al-Unwân*『題』が世界の 7 “気候帯” や海洋・島嶼、大地の 3 区分と 12 宮による区分など詳しい地理記述をしているのをはじめ、aṭ-Ṭabarî (Abû Ja'far Muḥammad b. Jarîr, 310/923 年没) の *K. Ta'rikh ar-rusul wa-l-mulûk*『諸使徒と諸王の歴史』にはイスラーム圏各地の地理情報、Eutychius すなわち Sa'id b. al-Bitriq (328/940 年没) の世界史 *K. Naẓm al-jawhar*『一連の宝石』には特にエジプトに関する地理情報、そして、'Arib b. Sa'd al-Kâtib al-Qurṭubî (370/980 年頃没) による *K. Ṣilat* (或いは *Mukhtaṣar*) *ta'rikh aṭ-Ṭabarî*「タバリ一年代記 (aṭ-Ṭabarî の上掲書) の要約」には主に北アフリカとイベリア半島に関する地理情報が、それぞれ多く含まれている<sup>108)</sup>。

また、Ibn an-Nadîm (Abû 'l-Faraj Muḥammad b. Ishâq b. Abî Ya'qûb, 377/987 年以後没) の *K. al-Fihrist*『目録』, al-Khuwârazmî (Abû 'Abd Allâh Muḥammad b. Aḥmad b. Yûsuf al-Kâtib, 387/997 年没) の *K. Maḥâṣil al-'ulûm*『諸学の鍵』, Ma'n b. Farî'ûn (或いは Furay'ûn, 或いは Farîghûn, 4 /10 世紀後半没?) の *K. Jawâmi' al-'ulûm*『諸学集成』といった書誌学的作品や、Ibn 'Abd Rabbih (Abû 'Umar (或いは 'Amr) Aḥmad b. Muḥammad, 328/940 年没) の *K. al-'Iqd al-farîd*『類なき首飾り』, aṭ-Tanûkhî (Abû 'Alî al-Muḥassin b. 'Alî, 384/994 年没) の *K. al-Faraj ba'da ash-shidda*『苦しみの後の楽しみ』, Abû Ḥayyân at-Tawḥîdî ('Alî b. Muḥammad b. al-'Abbâs, 414/1023 年没) の *K. al-Imtâ' wa-l-mu'ânasa*『喜びと親交』(375/985 年以前) といった adab 書も、地理を含む文献として有名である<sup>109)</sup>。

最後に、Ibn al-Qâṣṣ の名で呼ばれる Abû 'l-'Abbâs Aḥmad b. Abî Aḥmad aṭ-Ṭabarî は、Ṭabaristân の Âmul 出身のシャーフィイー派法学者であるが、322/934 年以後に『キブラ (礼拝の方角) 案内』という作品を著した。

この作品は、序、キブラを al-Ka'ba へ向けること、北極星と極とキブラの星々、聖なるアッラーの館への各地からの方角、大地の形状及び大地を al-Ka'ba へ向けさせること、大地の長さ、幅、〈聖なるアッラーの館及び al-'Arab の島の長さ〉、海洋及びその長さ、幅【al-Hind と〈aṣ-Ṣîn と〉の海 (インド洋・シナ海)、Ṭabaristân と〈Jurjân と〉の海 (と al-Khazar の海) (カスピ海)、al-Maghrib の海 (= 緑海) (大西洋)、ar-Rûm の海 (= Ifriqiya と ash-Shâm との海) (地中海)】、河川の叙述【an-Nîl 河, al-Furât (ユーフラテス) 河, ad-Dijla (ティ

グリス) 河, Sayhân (シルダリア) 河, Jayhân 河】,大地の区分及び大地の諸 iqlîm 【al-Furs の 7 iqlîm (keshvar), 第 1 “気候帯”, 第 2 “気候帯”, 第 3 “気候帯”, 第 4 “気候帯”, 第 5 “気候帯”, 第 6 “気候帯”, 第 7 “気候帯”, 第 7 “気候帯” の後ろ】,山岳 【Lukkâm 山 (アナトリア中南端部のガーウル山脈), as-Sarâh 山 (アラビア半島中西部の山脈), ar-Râhûn (或いは ar-Ruhûn) 山 (スリランカ島のアダムズピーク), Dunbâwand (ダマーヴァンド) 山 (カスピ海南方の山), Tûr Sinâ (シナイ) 山】,各地 【Makka, al-Madîna, al-Khaḍra (al-Khaḍr) の町と al-Khawarnaq, Bayt al-Maqdis, Qusṭantîna (Qusṭantîniya), ar-Rûmîya の地, ar-Raqîm と洞窟の主たちとの地, Yâjûj と Mâjûj との堰, Şan'a' の地, 円柱を有する Iram の地, al-Iskandariya, 高殿 (qaṣr mushayyad)?, Andalus (al-Andalus), Işbahân, Ṭabaristân と Samarqand】,各地の廃墟, この世の今日までの期間, の叙述からなっている<sup>110)</sup>。

前半 (山岳の叙述まで) はキブラの決定ほか, 専門的な内容が主となる「経度と緯度の学」に, 後半 (各地の叙述以降) はイスラームの伝承に登場する関係する場所の情報など, adab 的な内容の「国々の奇事の学」に, それぞれ属するような作品であり, al-Bîrûnî の『過ぎし世紀からの残跡』や Abû Hâmid al-Gharnâtî (565/1169-70 年没) の *K. al-Mu'rib 'an ba'd, 'ajâ'ib al-Maghrib*『マグリブの奇事の一部を明言するもの』, Yâqût · Ibn al-'Adîm の各前掲書などに利用されている<sup>111)</sup>。

## (5)

そして, 数理・天文地理学に属する「経度と緯度の学」においては, Suhrâb (334/945 年以後没) の *K. 'Ajâ'ib al-aqâlîm as-sab'a*『7 気候帯の不思議』や Ikhwân aş-Şafâ' (4 /10 世紀後半活躍) の *ar-Rasâ'il*『書簡集』第 4 書簡などが著された。そのほかの自然地理学の分野では, Ibn Waḥshîya (300/912 年頃以後没) 訳 (或いは著) の農学書 *K. al-Filâḥa an-nabaṭiyya*『ナバト農耕』も現れた。

『7 気候帯の不思議』(或いは *K. 'Ajâ'ib al-aqâlîm as-sab'a ilâ nihâyat al-'imâra*『居住地の果てまでの 7 気候帯の不思議』) の著者とされる Suhrâb, 或いは Ibn Sarâbiyûn (或いは Sirabiyûn) という人物については不明である<sup>112)</sup> が, この作品は 289/902 年から 334/945 年の間に著されたと考えられる<sup>113)</sup>。

この書は序説に続いて, 第 1 “気候帯” (赤道～北緯 16 度 27 分)・第 2 “気候帯” (～北緯 23 度 51 分 [24 度 0 分])・第 3 “気候帯” (～30 度 22 分)・第 4 “気候帯” (～36 度 0 分)・第 5 “気候帯” (～40 度 50 分)・第 6 “気候帯” (～45 度 8 分)・第 7 “気候帯” (～48 度 32 分)・第 7 “気候帯” の後方 (～63 度 0 分) の各々にある町々の経緯度, 諸地方の境界地点の各経緯度; 北からの西の外海 (大西洋北部), Ifrîqiya · Barqa · Mişr · ash-Sha'm · ar-Rûm の海 (地中海), al-Qulzum の海 (紅海) と as-Sind · al-Hind · aş-Şîn の海 (アラビア海～シナ海) と Fâris の海 (ペルシア湾), すなわち南の大海 (インド洋), 暗黒の海 (大西洋南部), Ṭabaristân · ad-Daylam の海 (カスピ海) の各々の経緯度を使った形状; 西と北の外海, ar-Rûm の海すなわち Ṭanja · ash-Sha'm の海, al-Qulzum の海すなわち al-Yaman の海, 緑の海すなわち as-Sind · al-Hind · aş-Şîn の海, al-Başra の海すなわち Fâris の海, Jurjân · Ṭabaristân · ad-Daylam の海の各々にある島々の経緯度を使った形状, 大地に

ある湖沼の経緯度を使った形状；赤道の後方・第 1 “気候帯” ……第 7 “気候帯” の後方の各々にある山々の始めと終わりの経緯度など、鋼玉島（不明）を取り巻く山ほかの山々の経緯度を使った形状；Dijla・al-Furât ほか大河の経緯度を使った形状，第 1 “気候帯” ……第 7 “気候帯” の後方，赤道の後方の各々にある河川の経緯度を使った形状を記す<sup>114)</sup>。

この書は前世紀の al-Khuwârazmî (232/846 年以後没) の『大地の姿』のほぼ焼き直しと考えられるが，各 “気候帯” iqlîm に，“keshvar” iqlîm を結び付け，支配星（太陽・月・5 大遊星）・宮（黄道 12 宮）を添記するという改変（2 種類の iqlîm の混同または融合）のほかは，山岳・河川を中心に新たな情報を加えた，al-Khuwârazmî の書の改正・増補本となっている。特に Baghdâd の運河網や an-Nîl デルタの記述は正確かつ詳細である。また，Suh râb の書は文体もアラビア語としてかなりの改善が見られる。そして，序説では世界地図の作成法に言及しており，彼の著作の目的は，地図製作者に役立つ世界各地の経緯度などのデータを供給することであつたらしい。以後，『7 気候帯の不思議』は al-Khaṭīb al-Baghdādī・{Yāqūt}・Abū 'l-Fidā' の各前掲書などに利用されたと考えられる<sup>115)</sup>。

Ikhwân aş-Şafā'，正確には Ikhwân aş-Şafā' wa-Khullân al-Wafā'（「清純な同胞たちと忠実な親友たち」）は，4/10 世紀頃に al-'Irâq の al-Baṣra を拠点に秘密結社的な活動を行っていたとされる思想家集団であり，イスマーイール派と関係があるのではないと言われる<sup>116)</sup>。そして，375/986 年以前，共同執筆によって 4 部 51（或いは 52）書簡からなる百科全書的な『書簡集』を著した<sup>117)</sup>。

その第 1 部（数理学）の第 4 書簡が「al-Jughrāfiyâ（地理）について」で，“気候帯”と，大地の 14 たる居住地域にあるもの：大地が大気圏の中央に位置することとその理由，対置とその 4 部分化，大地の 14 たる居住地域，7 “気候帯”；考慮のため大地の注視を促すこと：（北緯 12 度？以南）の町々の名—以下，町々の名には経緯度が添記—，第 1 “気候帯”（北緯 12 度 45 分～20 度 30 分）とその町々の名，第 2 “気候帯”（～27 度 30 分）とその町々の名，第 3 “気候帯”（～33 度 30 分）とその町々の名，第 4 “気候帯”（～39 度 0 分）とその町々の名，第 5 “気候帯”（～43 度 30 分）とその町々の名，第 6 “気候帯”（～47 度 15 分）とその町々の名，第 7 “気候帯”（～50 度 30 分）とその町々の名；“気候帯”の特色；などを記述する。その他，第 1 部第 3 書簡が al-Aṣṭrunūmiyâ（天文），第 2 部（自然学）第 2 書簡が天界と世界，同第 4 書簡が気象，同第 5 書簡が鉱物，同第 7 書簡が植物，同第 8 書簡が動物，同第 17 書簡が言語を扱うなど，地理関係の記事は随所に見られる<sup>118)</sup>。

第 1～7 “気候帯”の記述は，各 “帯” ごとに支配星，東西の長さ，南北の幅，南端・中央・北端，山岳・河川・都市の数の明示に続いて，東から西へ通過地域を列举し，最後に住民の肌の色に触れるが，大半を占める通過地域の列举の内容は，これまでの al-Farghânî 系統の伝統的なもの（Ibn Rustih, al-Hamdânî, Muṭahhar al-Maqdisî など）とは異なり，北方などに新情報を加えた独自なものである。また，第 4 iqlîm の最優秀性を強調するが，これは al-Mas'ûdî の『提言と再考』と類似の傾向を示す（但し，Ikhwân aş-Şafā' は “気候帯” iqlîm だが，支配星を配することからも，“keshvar” iqlîm との融合の感が強い）。尤も，地理全般について見れば，基本的にギリシアの学説の翻訳であると言えよう<sup>119)</sup>。

なお, al-Fazārī (172/788 年以後没) の書以来, 世界各地点の経緯度表示を含む zij (天文表) も「経度と緯度の学」において重要な役割を占め, この世紀には Abū 'l-Wafā' al-Būzajānī (388/998 年没) の天文表 (伝聞では *K. az-Zij al-wāḍiḥ* 『明解天文表』) ほか。現存するのは, 彼の作品或いは後代におけるその改作と言われる *K. az-Zij ash-shāmil* 『包括的天文表』や Kūshiyār b. Labbān (380/990 年頃活躍) の *K. az-Zij al-jāmi'* 『包括的天文表』ほかの作品があったらしい<sup>120)</sup>。

Abū 'l-Wafā' al-Būzajānī, すなわち Abū 'l-Wafā' Muḥammad b. Muḥammad b. Yaḥyā b. Ismā'il b. 'Abbās al-Būzajānī と, Kūshiyār b. Labbān, すなわち Abū 'l-Ḥasan Kūshiyār b. Labbān b. Bāshahrī al-Jīlī は, 共に数学者・天文学者として有名な人物であり, 前者と結び付けられる『包括的天文表』には, 世界の諸都市などの位置を経度は永遠の島々 (カナリア諸島) から, 緯度は赤道から数えた「永遠の島々からの国々の経度及び赤道からの国々の緯度」の一覧表, 後者の『包括的天文表』にも, 同様な「古い時代における, 永遠の島々からの国々の経度及び赤道からの国々の緯度の表」が, それぞれ記されている<sup>121)</sup>。

伝聞では, そのほか, Ibn al-Ādamī (Abū 'Alī al-Ḥusayn b. Muḥammad, 308/920 年以後没?) と弟子の al-'Alawī (al-Qāsim b. Muḥammad b. Ḥāshim al-Madā'inī, 338/949 年頃没?) による大天文表 *K. Naẓm al-'iqd* 『一連の首飾り』, an-Nayrīzī (Abū 'l-'Abbās al-Faḍl b. Ḥātim, 310/922-3 年没) の *K. az-Zij al-kabīr* 『大天文表』など, Ibn Amājūr (Abū 'l-Qāsim 'Abd Allāh at-Turkī, 297/910 年以後没?) と息子の Abū 'l-Ḥasan 'Alī (322/933 年以後没) による *K. az-Zij al-badī'* 『真新天文表』ほかの天文表, Ibn al-A'lam (Abū 'l-Qāsim 'Alī b. al-Ḥasan al-Baghdādī, 375/985 年没) の *K. az-Zij al-'Aḍudī* 『アドウド天文表』, al-Khujandī (Abū Maḥmūd Ḥāmid b. al-Khiḍr, 390/1000 年没) の *K. az-Zij al-Fakhrī* 『ファフル天文表』, al-Majrīṭī (Abū 'l-Qāsim Maslama b. Aḥmad al-Faraḍī, 398/1007 年頃没) による天文表なども有名である<sup>122)</sup>。

また, 自然地理的知識を多く含む anwā' (アラビアの遊牧民社会で発達した民間天文学による「星の暦」) の書も, 前世紀に引き続き著され, 伝聞では, Sinān b. Thābit b. Qurra (Abū Sa'īd al-Harrānī, 331/942 年没) や, 前述の 'Arib b. Sa'd al-Qurṭubī をはじめ, az-Zajjāj (Abū Ishāq Ibrāhīm b. Muḥammad b. as-Sarī, 310/922 年没), al-Akhfash al-Aṣghar (Abū 'l-Ḥasan 'Alī b. Sulaymān, 315/927 年没), Ibn Durayd (Abū Bakr Muḥammad b. al-Ḥasan al-Azdī, 321/933 年没), Waki' al-Qāḍī (Abū Muḥammad Bakr b. Ḥayyān b. Ṣadaqa, 330/941 年没) などによって著されたようだ<sup>123)</sup>。

更に, anwā' 書に類似の作品として, al-Marzubānī (Abū 'Abd Allāh Muḥammad b. 'Imrā, 4/10 世紀末没) の *K. al-Azmina* 『時期』という, 季節・気象・天体を扱った書物もあったらしい<sup>124)</sup>。

最後に, Ibn Waḥshiya の名で知られる Abū Bakr Aḥmad b. 'Alī b. Qays al-Kasdānī が 291/904 年にシリア語からアラビア語に翻訳したか, 彼自身が著したと言われる農業書『ナバト農耕』は, *K. Iflāḥ al-arḍ wa-iṣlāḥ az-zar' wa-'sh-shajār wa-'th-thimār wa-daf' al-āfāt 'an-hā* 『土地の耕作と, 種と木と実の改良及び病気の予防』が正式な書名かも知れない<sup>125)</sup>。

この書は Bābil (バビロン。ここでは下メソポタミアの中心部或いは全体を指すのか) 地

方などにおける様々な作物（オリーブに始まり、小麦・大麦・米、西瓜、葡萄、柘榴、梨ほかを経て、棗椰子に終わる）や、水、季節、大気、土壌などについての記述を含み<sup>126)</sup>、以後、al-Idrīsī・al-Ḥimyarī・as-Suyūṭīの各前掲書などに利用・引用されている。

(6)

以上のように、一般にイスラーム地理学と呼ばれるものは、西暦 9 世紀に、数理・天文地理学に属する「経度と緯度の学」と、地誌的（記述）地理学に属する「諸道と諸国の学」及び「国々の奇事の学」の三つが中心となって成立したと考えられるが、西暦 10 世紀になると、地誌的地理学が大発展を遂げた。イラクよりもアラビア重視の記述傾向が見られるようになり、「諸道と諸国の学」においては、Balkhī 学派が登場し、イスラーム圏に記述を限定して、地図を利用した、体系的な地誌を生み出した。また、「国々の奇事の学」においては、東アジアから西ヨーロッパ、東アフリカまで、アフロ＝ユーラシアの広域を対象とするようになり、ヴォルガ＝ブルガール、スビアなどの当時のイスラーム圏の辺境・異郷の実情を詳細に知らせる作品や、インド洋周辺などの奇談を満載した作品も生み出した。そのほか、本格的な一地方誌が出現したり、地理記述が歴史書や百科全書の一部に組み込まれたりするもの、この西暦 10 世紀である。

(完)

前稿までの追加

本文：① al-Jāhīz の『国々』は、Abū Ja'far al-Idrīsī (649/1251 年没) の *K. Anwār 'ulwī al-ajrām fī 'l-kashf 'an asrār al-ahrām* 『ピラミッドの秘密を発見するための最上星の光』と、as-Suyūṭī (911/1505 年没) の *K. Husn al-muḥādara fī akhbār Miṣr wa-'l-Qāhira* 『エジプトとカイロの歴史情報に関する素晴らしい講義』にも利用・引用されている。

② Ibn al-Faqīh の『国々』は、Ḥasan al-Qummi (406/1015-6 年没) の *K. Ta'riḫ Qumm* 『コム史』と、al-Ḥimyarī の前掲書にも、③ al-Mas'ūdī の『黄金の牧場と宝石の鉱山』は、Abū Ja'far al-Idrīsī, al-Ḥimyarī, as-Suyūṭī の各前掲書、④『提言と再考』は、Abū Ja'far al-Idrīsī の前掲書にも、⑤『諸奇事の要約』は、Abū Ja'far al-Idrīsī の前掲書にも、⑥ al-Balkhī の *K. Ṣifat al-arḍ wa-'l-aqālīm* 『大地と諸州の描写』(= *K. Ṣuwar al-aqālīm* 『諸州の姿』) は、Abū Ja'far al-Idrīsī の前掲書にも、⑦ Qudāma の『租税と書紀術』は、[as-Suyūṭī の前掲書] にも、⑧ al-Iṣṭakhri の『諸道と諸国』は、al-Ḥimyarī の前掲書にも、⑨ Ibn Ḥawqal の *K. al-Aqālīm* 『諸州』(= *K. Ṣūrat al-arḍ* 『大地の姿』) は、as-Suyūṭī の前掲書にも、⑩ al-Muḥallabī の『諸道と諸国』は、[Abū Ja'far al-Idrīsī の前掲書] にも、それぞれ利用・引用されている。

註：38) Ibn al-Jazzār (Abū Ja'far Aḥmad b. Ibrāhīm b. Abī Khālid, 395/1004-5 年頃没) にも *K. 'Ajā'ib al-buldān* 『国々の諸奇事』という作品があるらしい [H.R.Idris : Ibn al-Djazzār, EI2, III, 1971, p.754]。

41) al-Muqaddasī の前掲書 [p.5a] に従えば、Ibn al-Marzubān al-Karkhī (Abū Bakr Muḥammad b. Khalaf, 309/921-2 年没) も al-Balkhī や al-Iṣṭakhri の地理書と同様な作品を著したらしい。

最後) Ḥusayn Mu'nīs [*Tāriḫ al-jughrāfiya wa-'l-jughrāfiyyīn fī 'l-Andalus*, Madrid: Ma'had ad-Dirāsāt al-Islāmiya, 1386/1967, p.538] は al-Ḥimyarī の前掲書が Balkhī 学派 (al-Balkhī, al-Iṣṭakhri, Ibn Ḥawqal, al-Muqaddasī) の作品を利用していると言う。

本稿の略記一覧表

Ahmad : Sayyid Maqbul Ahmad, *A History of Arab-Islamic Geography*, Amman: Al al-Bayt University, 1995.

- Alavi : S.M.Ziauddin Alavi, *Arab Geography in the Ninth and Tenth Centuries*, Aligarh:Aligarh Muslim University, 1965.
- BGA : Bibliotheca Geographorum Arabicorum, ed. M.J.de Goeje, J.H.Kramers, vol. I - VIII, Leiden:E.J.Brill,1870-1938.
- EL2 : *The Encyclopaedia of Islam*, New Edition,vol. I -XI, Leiden:E.J.Brill, London:Luzac & Co., 1960-2002.
- GAL:Carl Brockelmann, *Geschichte der arabischen Litteratur*, vol. I - II, Weimar & Berlin, 1898-1902 [reprint Leiden: E.J.Brill, 1943-49] ; — S : *Supplementband*, vol. I - III, Leiden:E.J.Brill, 1937-42.
- GAS : Fuat Sezgin, *Geschichte der arabischen Schrifttums*, vol. I -XII, Leiden:E.J.Brill, Frankfurt am Main: Institut für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften, 1967-2000.
- Ibn an-Nadīm : Ibn an-Nadīm, *Kitāb al-Fihrist*, ed. Gustav Flügel, vol.I, Leipzig:F.C.W.Vogel, 1871.
- Irshād : Yāqūt, *K. Irshād al-arīb ilā ma'rifat al-adīb (Mu'jam al-udabā', Dictionary of Learned Men of Yāqūt)*, ed. D.S.Margoliouth, vol. I - VII, E.J.W.Gibb Memorial Series VI, Leiden:E.J.Brill, London:Luzac & Co., 1908-26.
- Kamal:Youssef Kamal, *Monumenta Cartographica Africae et Aegypti*, vol. III, fasc. 1-2, Cairo,1930-32[reprint Frankfurt am Main:Institut für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften, 1987].
- Krachkovskiy : Ignatij Yulianovich Krachkovskiy, *Arabskaya geograficheskaya literatura*, Izbrannye Sochineniya IV, Moscow & Leningrad:Ak. Nauk SSSR, 1957.
- Minorsky (a) : V. Minorsky, *Hudūd al-'Ālam 'The Regions of the World'*, E.J.W.Cibb Memorial Series New Series, XI, London:Luzac & Co., 1937.
- Minorsky (b) : V. Minorsky, "The Khazars and the Turks in the *Ākām al-Marjān*," *Bulletin of the School of Oriental Studies* (London) IX /1,1937.
- Miquel:André Miquel, *La géographie humaine du monde musulman jusqu'au milieu du 11e siècle*, vol. I, Paris & The Hague:Mouton, 1967.
- Mu'jam : Yāqūt, *Kitāb Mu'jam al-buldān (Jacut's geographisches Wörterbuch)*, ed. Ferdinand Wüstenfeld, vol. I - VI, Leipzig:F.A.Brockhaus, 1866-70.
- Mu'nis : Husayn Mu'nis, *Tārīkh al-jughrāfiya wa-'l-jughrāfiyīn fi 'l-Andalus*, Madrid:Ma'had ad-Dirāsāt al-Islāmīya, 1386/1967 [2<sup>nd</sup> ed. Cairo:Maktabat Madbūlī, 1406/1986].
- Reinaud : M. Reinaud, *Géographie d'Aboulfēda*, vol. I : Introduction générale à la géographie des Orientaux, Paris : Imprimerie Nationale, 1848.

### 本稿の前掲書一覧表

- al-Mas'ūdī (345/956 年没) の『提言と再考』ed. M. J. de Goeje, BGA VIII, 1894.
- Muṭahhar al-Maqdisī (355/966 年以後没) :『創始と歴史』
- Ibn Ḥawqal (380/990 年頃没) :『大地の形状』
- al-Muqaddasī (380/990 年以後没) :『諸州の知識に関する最良の区分』ed. M. J. de Goeje, BGA III, 1877.
- Ishāq b. al-Ḥusayn (341/952 年以後没) :『各地の有名な町々の叙述に関する珊瑚の丘』
- al-Khaṭīb al-Baghdādī (463/1071 年没) :『バグダード史』
- al-'Udhri (478/1085 年没) :『諸道と諸国に関する一連の真珠』
- al-Bakrī (487/1094 年没) :『諸道と諸国』
- al-Idrisī (560/1165 年没) :『諸国踏破を熱望する者の楽しみ』ed. A. Bombaci, *et al.*, 8 fascs., Naples:Istituto Universitario Orientale di Napoli, Rome:Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente, 1970-79 (82).
- Yāqūt (626/1229 年没) :『国々の辞典』
- Abū Ja'far al-Idrisī (649/1251 年没) :『ピラミッドの秘密を発見するための最上星の光』ed. Ulrich Haarmann, Beirut : al-Ma'had al-Almānī li-'l-Abḥāth ash-Sharqīya, 1991.
- Sibt b.al-Jawzī (654/1256 年没) :『名士たちの歴史に関する時代の鏡』
- Ibn al-'Adīm (660/1262 年没) :『アレppo史研究の望ましいもの』
- al-Qazwīnī (682/1283 年没) の『諸国の古跡』:『諸国の古跡と信者の情報』Beirut:Dār Ṣādir, 1380/1960.

- Ibn Shaddād (684/1285 年没)：『シリアとジャズィーラの君主たちに関する極めて貴重な記述』  
 Abū 'l-Fidā' (732/1331 年没)：『国々の調査表』ed. M. Reinaud & Mac Guckin de Slane, Paris : Imprimerie Royale, 1840.  
 an-Nuwayrī (732/1332 年没)：『人文学諸分野における必要の限度』  
 al-'Umarī (749/1349 年没)：『大都市を持つ諸王国に関するについての洞察の道筋』  
 Ibn al-Khaldūn (808/1406 年没)：『省察すべき実例, アラブ人とペルシア人とペルベル人及び彼らと同時代の偉大な支配者たちの初期と後期の歴史に関する集成』  
 Ibn Duqmāq (810/1407 年没)：『諸都市の中心への左祖』  
 al-Qalqashandī (821/1418 年没)：『作文術における夜盲の朝』  
 al-Maqrīzī (845/1442 年没)：『新地と旧跡の陳述叙述記述における警告と考慮』  
 Ibn al-Wardī (861/1457 年没)：『諸奇事の生真珠と諸珍事の貴真珠』ed. Maḥmūd Fākhūrī, Beirut & Aleppo: Dār ash-Sharq al-'Arabī, 1411/1991.  
 al-Ḥimyarī (900/1494 年没)：『国々の情報に関する香しい庭園』  
 al-Maqrīzī (1041/1632 年没)：『アンダルスの涼しい小枝の芳香』ed. R. Deozy, G. Dugat, L. Krehl and W. Wright, 2vols., Leiden : E. J. Brill, 1855-61.

### 本稿の註

- 64) 290 年の巡礼は Ibn Rustih [後註 65 の文献, p.73]。Miquel [p.192] は Ibn Rustih は書齋人で, Makka 巡礼以外は, イランの地を離れなかったと言う。Miquel [p.200] は更に, Ibn Rustih がシーア派に惹かれ, かつムウタズィラ派神学に強い関心を持っていた—前述の al-Mas'ūdī と類似。拙稿「マスウーディー著『黄金の牧場と宝石の鉱山』の第三～第六章をめぐって (1)」『大阪外国語大学論集』4, 1990, p.284 参照—とも言う。  
 そして, 著作年代の時期については, Minorsky (a) [p.168] は 300/912 年頃, 或いはその後としたが, Krachkovskiy [p.159] はこの説は以前は支配的であったが, 現在では 290/903 年の少し後とする説が一般的になっていると言い, 一応, 290/903 年から 300/913 年の間としている。そのため, Miquel [p.192] は 290/903 年の直後とし, Ahmad [p.67] は 290-300/903-13 年説を採用している。
- 65) Ibn Rustih, *al-Mujallad as-sābi' min Kitāb al-A'lāq an-naḥḥa*, ed. M. J. de Goeje, BGA vol. VII, 1892, pp.3-229.
- 66) al-Farghānī の書のほかに, Abū Ma'shar (272/886 年没) の *K. al-Aflāk wa-tarkīb as-samā'* 『天体と天空構造』, as-Sarakhsī (286/899 年没) の *K. Arkān al-falsafa wa-tathbūt 'ilm al-ḥikām an-nujūm* 『哲学の基礎と星学 (占星術) の明証』も利用したらしい [Ibn Rustih, *op. cit.*, pp.6, 9, 17]。なお, 大地自転説はインドの Āryabhatta の書 *Āryabhatīya* (499 年執筆) によるようだ [S. Maqbul Ahmad: Ibn Rusta, *ET2*, III, 1971, p.920]。
- 67) al-Jayhānī を利用したというのは, J. Marquart [*Osteuropäische und Ostasiatische Streifzüge*, Leipzig, 1903, p.26] や Minorsky (a) [p.xvii] の説である。下記の al-Jayhānī の項も参照。
- 68) なお, Ibn Rustih の書には Ibn al-Faqīh の『国々』と同じ記述も見られるが, 両者の作品間の関係 (共に同じ情報源を有するのか, 一方が他方を利用しているのか) は不明。また, Ibn Rustih の書はペルシア語作品の, 作者不詳の *Ḥudūd al-'ālam* (372/982-3 年執筆) や, Gardīzī (442/1050 年頃没) 著 *Zayn al-akhbār* などにも利用・引用されている。
- 69) Kamal [III /1, p.136] は『諸州の姿』の著者 Abū Zayd al-Balkhī (322/934 年没) がサーマーン朝の宰相で地理書を著した al-Jayhānī (Abū 'Abd Allāh Muḥammad b. Aḥmad) の庇護を受けたと考えるが, この説の根拠と考えられる Ibn an-Nadīm [p.138] では, Abū Zayd al-Balkhī が Naṣr b. Aḥmad の宰相 Abū 'Alī al-Jayhānī の保護を失った経緯が詳しく記されており, この Abū 'Alī al-Jayhānī は Abū 'Abd Allāh Muḥammad b. Aḥmad b. Naṣr の息子ではなかろうか。
- 70) 『諸道と諸国』という書名は Ibn an-Nadīm [p.138] や *Irshād* [II, p.59]。『諸国の知識に関する諸道』という書名は Reinaud [p.lxiii]。Ch. Pellat [al-Djayhānī, *ET2*, *Supplement*, fasc. 5-6, 1982, p.266] はこ

- の al-Jayhānī (Abū 'Abd Allāh Muḥammad) 一下記の al-Mas'ūdī の『提言と再考』[p.75] が言及—  
が書き始め、息子の Abū 'Alī Muḥammad が引き継ぎ、孫の Abū 'Abd Allāh Aḥmad—Ibn an-Nadīm  
[p.138] や *Irshād* [II, p.59] が言及—が 330/941-2 年以後に完成させた可能性を示唆し、C. E. Bosworth  
[al-Marwazī, *ET*, VI, 1991, p.628] はこの al-Jayhānī と彼の一家がこの書を著したと考える。
- 71) al-Mas'ūdī の『提言と再考』[p.75]。
- 72) al-Muqaddasī の前掲書 [pp.3-4]。Iqlīm の様々な意味については、拙稿「Iqlīm 考— Yāqūt を基に—」『オリエント』26/2, 1984, pp.78-82 を参照。
- 73) al-Muqaddasī の前掲書 [p.241]。次の “ ” 内は註 71。
- 74) Minorsky (b) [p.149] は Ishāq b. al-Ḥusayn の前掲書にも利用されているのではないかと言う。また、  
V. Minorsky [ *Sharaf al-Zamān Ṭāhir Marwazī on China, the Turks and India*, London: The Royal Asiatic  
Society, 1942, p.9] は Muṭahhar al-Maḥdīsī の『創始と歴史』[下記の註 77 の文献, vol.IV, p.19] が引  
用する *Kitāb al-Masālik*『諸道』が al-Jayhānī の書であった可能性が高いと言う。その他、al-Qazwīnī  
の『国々の古跡』[p.285] によると、ar-Rāzī (Abū Bakr Muḥammad b. Zakariyā', 313/925 年以後没)  
も al-Jayhānī の *al-Masālik al-mashriqiya*『東方諸道』(『諸道と諸国』のこと) を利用したらしいが、  
ar-Rāzī の書名は不明である。更には、Ibn al-Wardī の前掲書 [pp.115, 185] に al-Jahānī の言説が挙  
がっているが、これも al-Jayhānī の『諸道と諸国』のことではなかろうか。なお、ペルシア語作品  
では *Ḥudūd al-'ālam* を始め、Gardīzi 著の *Zayn al-akhbār*, 'Awfi (630/1232 年没) 著の *Jawāmī al-  
ḥikāyāt wa-lawāmi' ar-riwāyāt* ほか al-Jayhānī の『諸道と諸国』を利用・引用している。
- 75) 前註 67 の説以来で、Ahmad [p.68] や Hansgerd Göckenjan & István Zimonyi [ *Orientalische Berichte  
über die Völker Osteuropas und Zentralasiens im Mittelalter*, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2001, pp.34-  
35, 49]。更には、Ibn an-Nadīm [p.154] は、既述の Ibn al-Faqīh がこの al-Jayhānī の作品を盗用した  
と非難し、Yāqūt [ *Irshād*, II, p.63] もそれを繰り返し、Reinaud [p.lxiv] は、al-Jayhānī はこの作品  
を完成させる前に没し、Ibn al-Faqīh が再編・要約したとする。しかし、M.J. de Goeje [Ibn al-Faqīh:  
*Mukhtaṣar Kitāb al-Buldān*, BGA V, 1885, p.xi] や V. Minorsky [註 74 の第 2 文献, p.6] や Krachkovskiy  
[p.222] は、時間的見地に立って、Ibn an-Nadīm や Yāqūt の説に疑念を呈する。そして Yūsuf al-Hādī  
[Ibn al-Faqīh: *Kitāb al-Buldān*, Beirut: 'Ālam al-Kutub, 1996, pp.39-40] は、真相は al-Muqaddasī が語っ  
た、al-Jayhānī の作品と Ibn Khurdādhbih の作品との類似性にあり、Ibn al-Faqīh が Ibn Khurdādhbih  
を使い、al-Jayhānī がその同じ Ibn Khurdādhbih を使ったのではなかろうかと考える。なお、補足す  
ると、後述する Waki' al-Qāḍī (Abū Muḥammad Bakr b. Ḥayyān b. Ṣadaqa, 330/941 年没) にも、Ibn  
an-Nadīm [p.114] に従えば、諸地方や諸道の情報を含む *K. al-Tariq*「道」或いは *K. an-Nawāḥi*「諸  
地方」という未完成の作品があったらしい。
- 76) *K. al-Bad' wa-'t-ta'rikh* という書名は次の註 77 を参照。*K. Bad' al-khalq wa-'t-ta'rikh* という書名は、  
GAL [SI, p.222]。
- 77) *Kitāb al-Bad' wa-'t-ta'rikh* (*Le Livre de la création et de l'histoire*), ed. Clément I. Huart, Paris: Leroux, {vol.  
II, 1899, pp.1-73; vol. IV, 1907, pp. 1-48}, 49-104。
- 78) Krachkovskiy [p.166]。Yāqūt は、Ibn al-Hā'ik al-Hamdānī [ *Irshād*, III, p.9], Ibn al-Hā'ik [ *Mu'jam*, I,  
p.357, II, p.12 ほか] をはじめ、al-Ḥasan b. Aḥmad b. Ya'qūb al-Hamdānī al-Yamanī [ *Mu'jam*, I, p.543,  
III, p.102], Ibn Abī 'd-Dumayna al-Hamdānī (sic. al-Hamadhānī) [ *Mu'jam*, II, pp.280, 341], Abū  
Muḥammad al-Ḥasan b. Aḥmad al-Hamdānī [ *Mu'jam*, III, pp.471, 621] などという名で呼んでいる。
- 79) Yāqūt は地名事典 [ *Mu'jam*, I, p.7] では、al-Hamdānī の作品として *K. Jazīrat al-'Arab*『アラビア半  
島』を、人名辞典 [ *Irshād*, III, p.9] では『アラビア半島と、その各地とワジと住民との名前』を挙  
げているが、これらは『アラビア半島の特質』を指すと考えられる。また、Ibn al-Quffī (646/1248  
年没) の *K. Inbāh ar-ruwāt 'alā anbā' an-nuḥāt* [ed. Muḥammad Abū al-Faḍl Ibrāhīm, vol. I, Cairo: Dār  
al-Kutub al-Miṣriya, 1369/1950, p.278] は、al-Hamdānī の作品として『諸道と諸国』を挙げるが、『ア  
ラビア半島の特質』との関係についてをめぐっては 3 つの説があるようだ。すなわち、Ḥamad al-  
Jāsir [次註 80 の第 2 文献 (*Ṣifat jazīrat al-'Arab*, ed. al-Ḥawālī), 序文の p.31] や Ibrāhīm Khūrī [ *al-  
Hamdānī Ṣifat jazīrat al-'Arab*, Beirut: Dār al-Mashriq, 1993, p.53] に従えば、現存しない『諸道と諸国』



- の補遺或いは一部が『アラビア半島の特質』、『諸道と諸国』全体が『アラビア半島誌』の別名、『諸道と諸国』と『アラビア半島の特質』とは別作品、とそれぞれ考える説である。
- 80) al-Hamdānī, *K. Šifat jazīrat al-'Arab* (*Geographie der arabischen Halbinsel*), ed. David H. Müller, vol. I, Leiden : E. J. Brill, 1884, pp.1-279 ; *Šifat jazīrat al-'Arab*, ed. Muḥammad b. 'Alī al-Akwa' al-Ḥawālī, Riyadh : Dār al-Yamāma, 1394/1974, 本文の pp.3-458。
- 81) *K. al-Iklīl min akhbār al-Yaman wa-ansāb Ḥimyar*, ed. Anastās Mārī al-Karmalī, vol. VIII, Baghdad, 1931 ; ed. Muḥibb ad-Dīn al-Khaṭīb, vol. X, Cairo : al-Maṭba'a as-Salafiya, 1368/1948 ; ed. Muḥammad b. 'Alī al-Akwa' al-Ḥawālī, vol. I-II, Cairo : Maṭba'at as-Sunna al-Muḥammadiya, 1383-86/1964-66。
- 82) Ḥamad al-Jāsir [後註 84 の文献 (*Bilād al-'Arab*), 序文の pp.32-50] の説に従う。
- 83) Šāliḥ al-'Alī [*Bilād al-'Arab*, 序文の pp.10-31]。また, Ibn an-Nadīm [p.81] や Yāqūt [*Irshād*, III, p.83] も Lughda al-Iṣfahānī の著作としてアラビア半島に関する作品を挙げていない。なお, Ḥamad al-Jāsir [*Bilād al-'Arab*, 序文の p.50] は, Lughda al-Iṣfahānī が al-Aṣma'i の著作からこの書の情報の多くを引用したかも知れないと言う。
- 84) al-Ḥasan b. 'Abd Allāh al-Iṣfahānī, *Bilād al-'Arab*, ed. Ḥamad al-Jāsir & Šāliḥ al-'Alī, Riyadh : Dār al-Yamāma, 1387/1968, 本文の pp.3-417。
- 85) *Bilād al-'Arab*, 序文の p.7。
- 86) as-Sakūnī とその著名に関しては, Yāqūt の人名辞典 [*Irshād*, I, 1907, pp.409-10—Aḥmad b. al-Ḥasan b. Ismā'il Abū 'Abd Allāh as-Sakūnī (sic. as-Sakūnī) —] に従う, Ḥusayn Naṣṣār [at-Turāth al-jughrafi al-lughawī 'inda al-'Arab, *Majallat al-Majma' al-'Ilmi al-'Irāqī* (Baghdad), 14, 1967, p.21] の見解を採用した。同じ Yāqūt の地名辞典 [*Mu'jam*, I, p.7 他] の中で, アラビア半島各地に関する情報源として頻繁に登場する Abū 'Ubayd [Allāh] as-Sakūnī は, 同人物でなかろうか。また, al-Bakrī の地名辞典 [*K. Mu'jam mā 'sta'Ubayd*, ed. F. Wüstenfeld, vol. I, Göttingen, 1876, p.5] には, 「Tihāma の山々と諸地」に関する書の著者 Abū 'Ubayd [Allāh] 'Amr b. Bishr as-Sakūnī が登場するが, 別人であろうか。as-Sirāfi の「アラビア半島」は Yāqūt [*Mu'jam*, I, pp.7, 138 ; *Irshād*, III, p.86]。as-Sirāfi の作品には, *K. Asmā' jibāl at-Tihāma wa-makānī-hā* 『ティハーマの山々と諸地の名前』もあったらしい [Geneviève Humbert : al-Sirāfi, *ETI*, IX, 1997, p.669]。更に, Ibn an-Nadīm [p.114] に拠ると, Ibn (或いは Abū) al-Ash'ath なる人物 ('Aziz b. al-Faḍl, 4/10 世紀前半没か) にも, 「Makka とその後背地にある山(?)と谷(?)の特質と名前」という作品があるそう。
- 87) al-Azhari, *Tahdhīb al-lughha*, ed. 'Abd as-Salām Muḥammad Ḥarūn et. al., 15 vols., Cairo : ad-Dār al-Miṣriya Dār al-Kātib al-'Arabī, 1384-87/1964-67。al-Jawharī, *Tāj al-lughha wa-ṣiḥāḥ al-'arabiya*, ed. Aḥmad 'Abd al-Ghafūr 'Aṭṭār, 6 vols., Cairo : Dār al-Kitāb al-'Arabī, 1377/1957。その他, Ibn Durayd (Abū Bakr Muḥammad b. al-Ḥasan al-Azdi, 321/933 年没) の *K. al-Ishtiḳāq* [ed. 'Abd as-Salām Muḥammad Ḥarūn, Cairo : Mu'assasat al-Khāngī, 1378/1958] はアラブ諸部族に関する情報を, 同著者の *K. Jamharat al-lughha* [3vols., Hyderabad Deccan : Dā'irat al-Ma'ārif al-'Uthmāniya, 1344-45/1925-26] はアラビア半島の地名の読み方を提供する。
- 88) Mu'nīs [pp.23, 56] は彼をアンダルスにおける地理の父でかつ歴史の父と見なしている。Aḥmad ar-Rāzī の父 Muḥammad b. Mūsā ar-Rāzī (273/886 年没) は, Muḥammad b. 'Abd al-Wahhāb al-Ghassānī (1103/1691 年以後) の *Riḥlat al-wazīr fī 'fikāk al-asīr* [ed. al-Farīd al-Bustānī, Tetwan : Mu'assasat al-Jinrāl Franku, 1939] によれば, ムスリムによる征服を扱った *K. ar-Rāyāt* 『諸軍旗』を著したと伝えられるが, Mu'nīs [p.29] はこの書を歴史と地理の作品と見なしている。
- 89) 地誌が『アンダルス諸王史』の序というのは, Mu'nīs [p.59] や GAS [I, p.363] などの見解である。尤も Lévi-Provençal [al-Rāzī, *E. J. Brill's First Encyclopaedia of Islam 1913-1936*, vol. VI, 1987, p.1137] はこの諸王史とは別作品と考えているようにも見える。
- 90) La *Description de l'Espagne* d'Aḥmad al-Rāzī, tr. É. Lévi-Provençal, *Al-Andalus* XVIII, 1953, pp.59-104。
- 91) Mu'nīs [pp.39-40]。Qāsim b. Aṣbagh (340/951 年没) —Aḥmad ar-Rāzī の師— と al-Walīd b. Khayzurān とが Paulus Orosius 著のこの歴史書をラテン語からアラビア語に訳した [Mu'nīs, p.40]。
- 92) al-Maqqarī の前掲書 [vol. II, 1861, p.118]。

- 93) ibid. [vol. II, pp.112-13]. この作品は *K. Masālik Ifriqiya wa-mamālik-hā* 『イフリーキーヤの諸道と諸国』とも呼ばれる。
- 94) 後述するように、彼の父は歴史作品を著しており、彼は al-khiṭaṭ (エジプト地誌) 的要素を含む父の作品の影響を受けて、この『エジプトの長所』を著したと考えられる。
- 95) 'Umar al-Kindī, *Faḍā'il Miṣr*, ed. Ibrāhīm Aḥmad al-'Adawī & 'Alī Muḥammad 'Umar, Cairo : Maktabat Wahba, 1391/1971, pp.19-71.
- 96) Ibn Zūlāq の *Ta'riḥ Miṣr wa-akhbār-hā* は、Paris B. N. MS arabe 1816, 1817, 4727 など。なお、al-khiṭaṭ は、'Umar al-Kindī の父より前の、既述した Ibn 'Abd al-Ḥakam (257/891 年没) の『エジプト征服史』の中にその原型が見られる。
- 97) al-Janādī の *K. Faḍā'il al-Madīna* は、Zāhiriya (Damascus) MS maj. 71/6. al-Hasan b. Iṣḥāq の *K. Faḍā'il al-Iskandariya* は、Zāhiriya MS ḥadīth 163. また、al-Janādī の *K. Faḍā'il Makka* は、Ibn al-Qāṣṣ の『キブラ案内』[下記の註 110 の第 1 文献, pp.9, [14, 25, 43-49]] のほか、Yāqūt [*Mu'jam*, II, p.809] などが言及。その他、前稿 al-Balkhī の項で触れたように、Ibn an-Nadīm [p.138] は al-Balkhī の作品として *K. Faḍā'il Makka 'alā sā'ir al-biqā'* 『メッカが他所に対して持つ長所』も挙げているが、Yāqūt [*Irshād*, I, p.143] は al-Balkhī の作品として、*K. Faḍā'il Balkh* 『バルフの長所』も挙げている。
- 98) Ibn aṣ-Ṣaghīr, *Akhbār al-a'imma ar-Rustamiyyin*, ed. Muḥammad Nāṣir & Ibrāhīm Baḥāz, Beirut : Dār al-Gharb al-Islāmī, 1986. Abū Zakariyā' al-Azdī, *Tārīkh al-Mawṣil*, ed. 'Alī Ḥabība, Cairo : al-Majlis al-A'lā li-sh-Shu'ūn al-Islāmiya, 1387/1967. an-Narshakhī, *Tārīkh Bukhārā*, ed. Amīn 'Abd al-Majīd Badawī & Naṣr Allāh Mubashshir aṭ-Ṭirāzī, Cairo : Dār al-Ma'ārif 1385/1965. Muḥammad al-Kindī, *Wulāt Miṣr*, ed. Ḥusayn Naṣṣār, Beirut : Dār Bayrūt & Dār Ṣādir, 1379/1959. Ibn al-Qūṭiyya, *Tārīkh iftitāḥ al-Andalus*, ed. 'Abd Allāh Anīs aṭ-Ṭabbā', Beirut : Dār an-Nashr li-l-Jāmi'iyyin, 1957. *Kitāb-i tāriḥ-i Qum, ta'lif-i Ḥasan b. Muḥammad b. Hasan Qummi, tarjuman-i Ḥasan b. 'Alī b. Hasan b. 'Abd al-Malik Qummi*, ed. Sayyid Jalāl ad-Dīn Tihrānī, Tehran : Intishārat-i Tus, A. H. 1361. また、as-Sājī の「バスラ史」は、Yāqūt [*Mu'jam*, I, p.90, II, pp.650,775, ほか], 'Abd aṣ-Ṣamad al-Ḥimṣī の「ホモス史」は、Yāqūt [*Mu'jam*, I, p.787, II, pp.369, 611, など] が利用し、'Alī as-Salāmī の「ホラサーン総督史」は、Krachkovskiy [p.168] や Miquel [p.xxviii] が地理情報を含む作品として挙げる。その他、Yāqūt [*Mu'jam*, IV, p.888] が利用する、Abū Iṣḥāq al-Mustamlī (Muḥammad b. Ibrāhīm, 4/10 世紀初期活躍) の *K. Ta'riḥ Balkh* 「バルフ史」、Ibn an-Nadīm [p.139] が挙げる、Ḥamza b. al-Ḥasan al-Iṣfahānī (350/961 年以後没) の *K. Isfahān wa-akhbār-hā* 「イスファハーンとその歴史」、Ibn an-Nadīm [p.169] が挙げ、Yāqūt [*Mu'jam*, III, p.363] が利用する、al-Khālidiyān の *K. Akhbār* (或いは *Ta'riḥ*) *al-Mawṣil* 「モスル史」など、枚挙に事欠かない。
- 99) 著者と作品名は Angela Codazzi [註 102 の第 1 文献] に基づく Krachkovskiy [p.233] や Miquel [pp.xxx, 262] に従った。munajjim は al-Idrīsī の前掲書 [fasc.I, 1970 (82), p.6] に拠る。
- 100) 著作年代については、Angela Codazzi [註 102 の第 1 文献, p.380] は 262/875 年から 454/1062 年までの間とするが、Kamal [III /1, p.206] は 340/950 年頃、Krachkovskiy [p.233] は一応、西暦 10 世紀、Miquel [pp.xxx, 264] は 4/10 世紀中頃、Mu'nis [p.197] はヒジュラ暦 4 世紀、Fahmī Sa'd [註 102 の第 2 文献, p.16] は 344/955 年と 350/961 年との間と、それぞれ考える。他方、Minorsky (b) [p.141] は Iṣḥāq b. al-Ḥusayn が多分 11 世紀に属すると言い、Ahmad [p.111] もこの作品が西暦 11 世紀に書かれた可能性もあると言う。
- 101) Francisco Castelló [ed. & Spanish tr., *El Dīk al-aqālīm* de Iṣḥāq ibn al-Ḥasan al-Zayyāt (Tratado de geografía universal), Barcelona : Universidad de Barcelona, 1989] であり、GAS [X, p.133] も、Iṣḥāq b. al-Ḥasan az-Zayyāt の *Dhikr al-aqālīm* については言及するが、Iṣḥāq b. al-Ḥusayn の *Ākām al-marjān* は挙げておらず、E. S. & M. H. Kennedy [*Geographical Coordinates of Localities from Islamic Sources*, Frankfurt am Main : Institut für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften, 1987, p.xxxvii] は、Iṣḥāq b. al-Ḥasan az-Zayyāt の *K. Āḥkām al-marjān fī dhikr al-madā'in al-mashhūra bi-kull makān* としている。
- 102) Iṣḥāq b. al-Ḥusayn, *Kitāb Ākām al-marjān fī dhikr al-madā'in al-mashhūra fī kull makān* (II compendio

- geografico arabo di Ishâq ibn al-Ḥusayn), ed. Angela Codazzi, *Rendiconti della R. Accademia Nazionale dei Lincei*, Classe di scienze morali, 1929, pp.382-420 ; Ishâq b. al-Ḥusayn, *Ākām al-marjān fī dhikr al-madā'in al-mashhūra fī kull makān*, ed. Fahmī Sa'd, Beirut : 'Ālam al-Kutub, 1408/1988, pp.25-126.
- 103) 例えば, Ishâq b. al-Ḥasan az-Zayyât 著の *K. Dhikr al-aqālīm wa-'khtilāf-hā* とする Paris B. N. MS 2186 (catalogue de Mac Guckin de Slane) [Francisco Castelló, 註 101 の文献, pp.55-335] では, 各地・各都市の説明の前に, 「7 気候帯とその巾(緯度)の叙述」などがあり, at-Turk の地の説明の後に, at-Tughuzghuz の地, Yājūj と Mājūj の堰, aṣ-Ṣīn の地, 世界の海洋と島嶼, 世界の山岳と河川といった記述が来ているほか, Ḥalab の前に Ḥimṣ と Antākiya, al-Hind の az-Zābaj の前に as-Sind と al-Hind の記述が入っている。
- 104) GAL [SI,p.411] と Miquel [pp.xxxi,263]。
- 105) Krachkovskiy [p.241] は diyārāt では葡萄酒が醸造・販売されており, 酒宴を催し, 詩歌を楽しむことができ, こうした席で詩人たちが詠んだ歌を集めたものが, diyārāt 書と呼ばれ, アダブの一つのジャンルを形成したと言う。
- 106) ash-Shābushtī, *ad-Diyārāt*, ed. Gūrgis 'Awwād, Baghdad : Maṭba'at al-Ma'ārif, 1951, 本文の pp.3-429.
- 107) Ibn Khallikān の *K. Wafayāt al-a'yān wa-inbā' abnā' az-zamān* [ed. 'Abd ar-Rahmān b. Qitṭa al-'Adawī & Naṣr al-Hūrīnī, Būlāq, 1275/1858, vol. I, p. 481] は, Shābushtī の *K. ad-Diyārāt* を al-Khālidiyān 著の作品および Abū 'l-Faraj al-Iṣfahānī 著の作品と同じ題名を持つ, 類似の書であると言う。尤も, al-Khālidiyān の書に関して, Yāqūt は al-Khālidi (Abū 'Uthmān) の *K. ad-Diyārāt* [*Irshād*, II, p.23] や *K. ad-Diyara* [*Irshād*, VI, p.209], al-Khālidiyān の *K. ad-Diyara* [*Mu'jam*, I, p.667] と呼んでいる。また, Abū 'l-Faraj al-Iṣfahānī の *K. ad-Diyārāt* は Ibn Khallikān [前掲書, vol. I, p.475] や *Irshād* [V, p.151]。そして, as-Sarī ar-Raffā' al-Mawṣilī の *K. ad-Diyara* は Ibn Khallikān [前掲書, vol. I, p.284] や *Irshād* [IV, p.227]。最後に, ash-Shimshātī の書は Ibn an-Nadīm [p.154] や *Irshād* [V, p.376] では単に *K. ad-Diyārāt* となっているが, G. 'Awwād [註 106 の文献, 序文の pp.41-42] に従い, この書の正式名を *K. al-Adyira wa-'l-a'mār fī 'l-buldān wa-'l-aqtār* と考える。更には, Ibn an-Nadīm [p.84] や *Irshād* [VI, p.495] によれば, Ibn Ramaḍān (Muḥammad b. al-Ḥasan b. Ramaḍān, 350/961 年以後没) の *K. ad-Diyara* もある。なお, 前々稿でも触れた, Ibn an-Nadīm [p.97] や *Irshād* [VII, p.253] が挙げる Hishām b. Muḥammad b. as-Sā'ib al-Kalbī (204/819 年以後没) の *K. al-Hira wa-tasmiyat al-biya' wa-'d-diyārāt wa-nasb al-'ibādīyīn* 『アル・ヒーラと, 教会と修道院の命名と, イバード(アル・ヒーラのキリスト教徒たち)の系譜』を, G. 'Awwād [前掲書, 序文の p.36] は修道院を扱う作品の最初に挙げている。
- 108) Agapius b. Qusṭanṭīn ar-Rūmī al-Manbijī, *Kitāb al-'Unwān al-mukallal bi-faḍl al-ḥikma al-mutawwaj bi-anwā' al-falsafa al-mamdūh bi-ḥaqā'iq al-ma'rifa* (Agapius Episcopus Mabbugensis, *Historia universalis*), ed. P. L. Cheikho, Corpus Scriptorum Christianorum Orientalium, Scriptorum Arabici III/5 (X), Beirut : Maṭba'at al-Ābā' al-Yasū'iyyīn (E Typographeo Catholico), 1907 (1912)。at-Tabarī, *Ta'rikh ar-rusul wa-l-mulūk* (*Annales quos scripsit Abu Džafar Mohammad ibn Džarir at-Tabarī*), ed. M. J. de Goeje et al., 13 vols., Leiden : E. J. Brill, 1879-1901. Eutychius, Sa'id b. al-Bitriq, *Kitāb at-Ta'rikh al-majmū' (Eutychii Patriarchae Alexandrini Annales)*, ed. L. Cheikho, 2vols., Corpus Scriptorum Christianorum Orientalium, Scriptorum Arabici III /6-7, Beirut : Maṭba'at al-Ābā' al-Yasū'iyyīn, 1905-06. 'Arīb b. Sa'd al-Qurtubī, *Ṣīlat Ta'rikh at-Ṭabarī (Tabarī continuatus)*, ed. M.J.de Goeje, Leiden : E. J. Brill, 1897. *Mukhtaṣar Ta'rikh at-Ṭabarī* という書名は Kamāl [III /2, p.644]。なお, キリスト教徒の Agapius (= Maḥbūb b. Qusṭanṭīn) と Eutychius (= Sa'id b. al-Bitriq) との歴史書は, al-Mas'ūdī の『提言と再考』[p.154] の中で言及されており, ムスリムの間でもよく知られていたようである。
- 109) Ibn an-Nadīm, *Kitāb al-Fihrist*, ed. Gustav Flügel, vol.I, Leipzig : F. C. W. Vogel, 1871. Abū 'Abd Allāh al-Khuwārazmī, *Mafātīḥ al-'ulūm*, ed. G. van Vloten, Leiden : E. J. Brill, 1895. Ibn Farī'ūn, *Jawāmi' al-'ulūm*, ms. 2768 of the Ahmet III Collection of the Topkapi Sarayı Library, Istanbul, ed. Fuat Sezgin, Frankfurt am Main : Institut für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften, 1985. Ibn 'Abd Rabbih, *al-'Iqd al-farīd*, ed. Aḥmad Amīn et al., 6 vols., Cairo : Lajnat at-Ta'lif wa-'t-Tarjama wa-'n-Nashr, 1940-53。

- at-Tanûkhî, *K. al-Faraj ba'da ash-shidda*, ed. Muḥammad az-Zuhrî al-Ghamrâwî, 2vols., Cairo : Maṭba'at al-Hilâl, 1903. Abû Ḥayyân at-Tawhîdî, *K. al-Imtâ' wa'l-mu'âna*, ed. Aḥmad Amîn & Aḥmad az-Zayn, 3vols., Cairo : Lajnat at-Ta'lîf wa't-Tarjama wa'n-Nashr, 1939-44. なお, Miquel [pp.xxv, xxvi, 228-29] は, al-Bayhaqî (Ibrâhîm b. Muḥammad, 295/908 年以後没) の *al-Maḥâsin wa'l-masâwî* 『美点と欠点』, al-Washshâ' (Abû 't-Tayyib Muḥammad b. Aḥmad b. Ishâq b. Yahyâ, 324/936 年頃没) の *al-Muwashshâ* 『潤色』といった adab 書も地理情報を含む作品として挙げている。
- 110) Ibn al-Qâṣṣ, *Kitâb Dalâ'il al-qibla* (Das Buch über die Orientierung nach Mekka), ed. Fuat Sezgin, *Zeitschrift für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften*, IV, Frankfurt am Main: Institut für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften, 1987-88, Arabic part pp.11-91; 2<sup>nd</sup> version, *Zeitschrift für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften*, V, 1989, Arabic part pp.9-53. なお, Cairo Dâr al-Kutub MS mîqât1201 の *Kitâb fi 'l-Ma'rifa* 『知識について』や, London British Library MS Or. 13315 の *K. 'Ajâ'ib as-samâwât wa'l-arḍ* 『諸天と大地との諸奇事』も, この作品と同じものであると考えられる。
- 111) 付記: al-Idrisî (560/1165 年没) の前掲書 [fasc. I, p.5] は Jânâkh (或いは Khânâkh) b. Khâqân al-Kimâkî 著の書 (おそらく地理作品) を挙げているが, Ahmad [p.110] は, この著者を 10 世紀の人物とみなし, この人物の書を al-Idrisî がトルコ系民族に関する記述においてしばしば引用していると言う。また, 作者不詳 (或いは Ibn Farighûn 著?) のペルシア語による世界地誌 *Ḥudūd al-'âlam* 『世界の諸地域』 (*K. Ḥudūd al-'âlam min al-mashriq ilâ 'l-maghrib* 『東より西までの世界の範囲』, 372/982-3 年) が利用した先行地理文献は, 前述の Ibn Rustih の書と al-Jayhânî の書のほかにも, 『中国・インド情報』, Ibn Khuradâdhbih の『諸道と諸国』, al-Balkhî の『諸州の姿』, al-Mas'ûdî の『黄金の牧場と宝石の鉱山』, al-Iṣṭakhri の『諸道と諸国』, Ibn Ḥawqal の『大地の姿』などが挙げられる。
- 112) この著者として, そのほか, Alexander Seippel [ (ed.) *Rerum normanicarum fontes arabici*, fasc. II, Oslo, 1928, p.125] が Abû 'l-Hasan b. al-Bahlûl という名前を挙げている。Ahmad [p.27] は Suhrâb (Ibn Sarâbiyûn) という名前から見ておそらくイラン系であり, この書の Baghdad と al-'Irâq との運河の詳細な記述から見て, この地域に少なからぬ期間住んでいたのかも知れないと言う。
- 113) Krachkovskiy [p.98]
- 114) Suhrâb, *Kitâb 'Ajâ'ib al-aqâlim as-sab'a ilâ nihâyat al-'imâra*, ed. Hans von Mzik, Bibliothek Arabischer Historiker und Geographen V, Leipzig: Otto Harrassowitz, 1930, pp.5-192; "Description of Mesopotamia and Baghdad, written about the year 900 A. D. by Ibn Serapion" ed. G. Le Strange, *Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland* (London), 1895, pp.9-32.
- 115) Paul L. Heck [ *The Contribution of Knowledge in Islamic Civilization*, Leiden: E. J. Brill, 2002, p.111] は Qudâma の『租税と書記術』がこの Suhrâb の書の影響を受けているのではないかと言う。
- 116) Seyyed Hossein Nasr [ *An Introduction to Islamic Cosmological Doctrines*, revised edition, London: Thames and Hudson, 1978, pp.25-33] や Y. Marquet [Ikhwân al-Ṣafâ', *ET2*, III, p.1071] ほか。
- 117) 350/961-375/986 年説, 350/961-370/980 年説, 287/900-354/965 年説 [以上, Y. Marquet: Ikhwân al-Ṣafâ', *ET2*, III, pp.1072-73], 373/983 年以前説 [Krachkovskiy, p.230] ほかがある。
- 118) *Rasâ'il Ikhwân al-Ṣafâ' wa-Khullân al-Wafâ'*, Beirut: Dâr Bayrût & Dâr Ṣâdir, vol. I, 1376/1957, pp. 114-57, 158-82, vol. II, 1376/1957, pp.24-51, 62-86, 87-131, 150-77, 178-377, vol. III, 1377/1957, pp.84-177。
- 119) 後世への影響について言うと, 例えば, Maslama al-Majrîṭî (398/1007 年頃没) や彼の弟子 al-Kirmânî (458/1066 年没) が Ikhwân al-Ṣafâ' の『書簡集』をイベリア半島に紹介したらしい [J. Vernet: al-Madjrîṭî, *ET2*, V, 1986, p.1109]。
- なお, 「経度と緯度の学」に属するかも知れない作品として, Ibn an-Nadîm [p.280] によれば, Ibn Bâghhân (Abû 'r-Rabî' al-'Abbâs, 4/10 世紀かそれ以前に活躍) 著 *K. Qismat al-ma'mûr min al-arḍ wa-hay'at ad-dunyâ* 『大地の居住地域の分割と世界の形状』もあったらしい。そのほか, Reinaud [pp.lxxxix-xc] とそれを踏襲する Alavi [p.35] は, Abû 'l-Fidâ' の前掲書 [p.74] が言及する al-Furs (ペルシア人たち) 著の *Kitâb al-Aṭwâl wa'l-'urûd* 『経度と緯度』を, 哲学者として有名な al-Fârâbî

- (Abū Naṣr Muḥammad b. Muḥammad b. Tarkhān, 339/950 年没) がベルシアの天文家たちと共に書き上げた 4 /10 世紀後半の作品とみなすが, Aloys Sprenger [*Die Post- und Reiserouten des Orients*, Leipzig : F. A. Brockhaus, 1864, p.xxiv] は al-Bīrūnī (442/1050 年以後没) より後の作者不明の書と考え, GAS [X, pp.174, 396-7] は 7/13 世紀の著者不詳の作品とする。
- 120) zīj (天文便覧) の内容については, David A. King ["Astronomy," in M. J. L. Young *et al.* (eds.), *Religion, learning and science in the 'Abbasid period*, Cambridge : Cambridge University Press, 1990, p.277] を参照。Ibn an-Nadīm [p.283] は Abū 'l-Wafā' al-Būzajānī の作品に *K. Zīj al-wāḍiḥ* を挙げており, H.Suter [Abū 'l-Wafā' al-Būzajānī, *ET2*, I, 1960, p.159] は, この天文表は失われているが, 現存する *az-Zīj ash-shāmīl* と呼ばれる作品がおそらく Abū 'l-Wafā' al-Būzajānī の天文表の改作であろうと言う。そして, GAL [SI, p.400] も GAS [V, pp.324-25] も Abū 'l-Wafā' al-Būzajānī の著作として *az-Zīj ash-shāmīl* を挙げている。尤も, E. S. & M. H. Kennedy [註 101 の文献, p.xxxii] は *az-Zīj ash-shāmīl* を作者不詳の 473/1080 年以降のものとする。また, Reinaud [p.xcii] とそれに従う Alavi [p.36] は, Abū 'l-Wafā' al-Būzajānī が Ḥabash al-Ḥāsib (250/864 年以後没) の『実証天文表』を修正した *K. az-Zīj ash-shāmīl* を著したとする。なお, Kūshiyār 作の天文表には, *az-Zīj al-bāligh* もある。
- 121) *az-Zīj ash-shāmīl*, Paris B. N. MS arabe 2528; MS arabe 2529 [Kamal, III /1, p.306]。 *az-Zīj al-jāmī'*, Leiden Cod. Or. 8 [Kamal, III /1, p.306]。
- 122) Ibn al-Ādamī と al-'Alawī の *K. Naẓm al-'iqd* は, D.Pingree ['Ilm al-Hay'a, *ET2*, III, p.1137] や GAS [V, p.191; VI, pp.179-80]。 an-Nayrizī の *K. az-Zīj al-kabīr* は Ibn an-Nadīm [p.279]—*K. az-Zīj aṣ-ṣaghīr* も挙がっている—。 Ibn Amājūr と息子による *K. az-Zīj al-badī'* は Ibn an-Nadīm [p.280]—彼らによる天文表として, *K. az-Zīj al-khālīṣ* や *K. az-Zīj al-muzannir* などとも挙がっている—。 Ibn al-'Alam の *K. az-Zīj al-'Aqdī* は GAS [V, 309; VI, 216]。 al-Khujandī の *K. az-Zīj al-Fakhrī* は J. Samsó [al-Khujandī, *ET2*, V, p.47]。 Maslama al-Majrīṭī の天文表は J. Vernet [al-Majrīṭī, *ET2*, V, p.1109] や GAS [VI, p.227]。そして, Ibn al-Qiftī [*Ta'rikh al-ḥukamā'*, ed. Julius Lippert, Leipzig : Dieterich'sche Verlagsbuchhandlung, 1903, p.163] によると, al-Hamdānī にもよく知られた zīj があつたらしい。なお, Ibn Yūnus (Abū 'l-Ḥasan 'Alī b. 'Abd ar-Raḥmān b. Aḥmad aṣ-Ṣadafī, 399/1009 年没) の有名な *K. az-Zīj al-Hākīmī al-kabīr* 『大ハーキム天文表』は 393/1003 年以降の作品であるので, 本稿では言及しない。また, 'Abd ar-Raḥmān aṣ-Ṣūfī (Abū 'l-Ḥusayn 'Abd ar-Raḥmān b. 'Umar ar-Rāzī, ラテン語名 Azophi, 376/986 年没) の有名な天文書 *K. Ṣuwar al-kawākib ath-thamāniya wa-'l-arba'īn* 『48 星の姿』(或いは *K. Ṣuwar al-kawākib ath-thābita* 『恒星の姿』) のような, 大地を直接には扱っていないものは, 本稿の対象としなかった。以上のほか, Alavi [pp.29,34-37] は西暦 10 世紀の mathematical geography という項目で, Abū Ishāq Ibrāhīm b. Sinān b. Thābit b. Qurra と, Abū Ḥamid b. Muḥammad aṣ-Ṣaghānī も挙げている。また, Ahmad [pp.29-31] は, 西暦 9-10 世紀の astronomical literature という章において, Abū Ja'far al-Khāzin (Abū Ja'far Muḥammad b. al-Ḥasan al-Khurāsānī, 961 年以後没), al-Qūhī (Abū Sahl Wayjān b. Rusta, 970-1000 年頃活躍), as-Sijzī (Abū Sa'id Aḥmad b. Muḥammad, 969 年頃以後活躍) も挙げている。
- 123) Sinān b. Thābit b. Qurra の *K. al-Anwā'* は, al-Bīrūnī の *K. al-Āthār al-bāqiya 'an al-qurūn al-khālīya*, ed. C. E. Sachau, Leipzig, 1923, pp.243-75。'Arīb の *K. al-Anwā'* は, Rabi' b. Zayd (=Recemundo) (350/961 年以後没) 著の *Taqwīm Qurtuba* 『コルドバの暦』の一部となる [Ch. Pellat : 'Arīb b. Sa'id al-Kātib al-Qurtubī, *ET2*, I, p.628]。 *az-Zajjāj* 以下は Ch. Pellat [*Anwā'*, *ET2*, I, p.523]。
- 124) Ibn an-Nadīm [p.132]。そのほか, Ibn an-Nadīm [p.63] によると, Ibn Durustawayh (Abū Muḥammad 'Abd Allāh b. Ja'far, 347/958 年没) にも, *K. al-Azmina* という未完成の作品があつたようだ。
- 125) Ibn Waḥshiya [次註の文献, vol.I, 1993, p.5]。
- 126) Ibn Waḥshiya, *al-Filāḥa an-nabaṭiyya*, ed. Tawfiq Fahd, 2vols., Damascus : al-Ma'had al-'Ilmī al-Faransī li-'d-Dirāsāt al-'Arabīya, 1993-95。

(2003. 10. 10 受理)